

## 5) 福岡県産木材利用促進協議会

地域団体等	発表者	コンサル
福岡県産木材利用 促進協議会	福岡県産木材利用促進協議会 副会長 <small>あきやま あつし</small> 秋山 篤史	アルセッド 建築研究所





啓発  
先端事例

普及

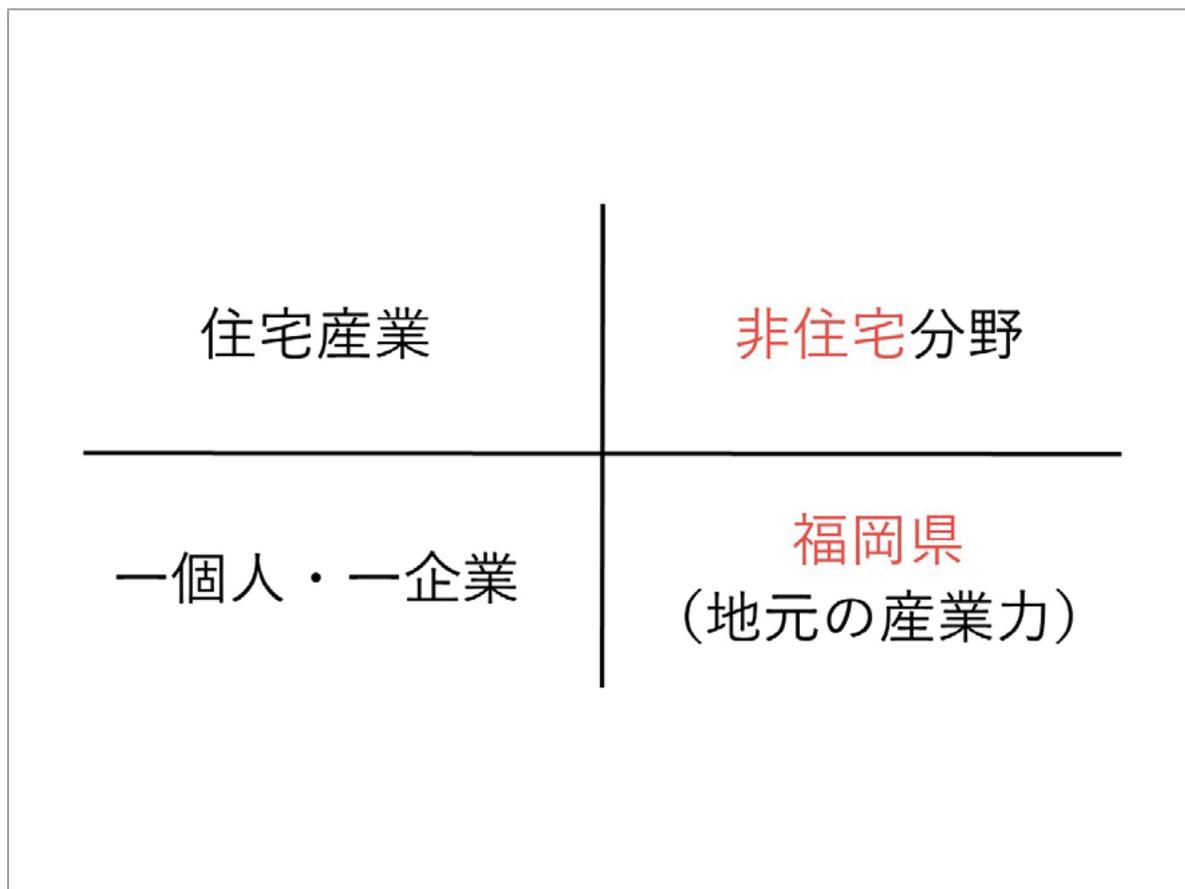
2010年  
公共建築物等木材利用促進法



2022年  
木促法

潮流・シフト

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



## 事業の根幹

福岡県の

川上 ・ 川中 ・ 川下が  
(林業) (木材産業) (建築)

集って、語り合って、共に取組む

大きな「意義」がある

# B

## 希望した支援内容・当初想定した成果

### 希望した支援内容・当初想定した成果

#### 《希望した支援内容》

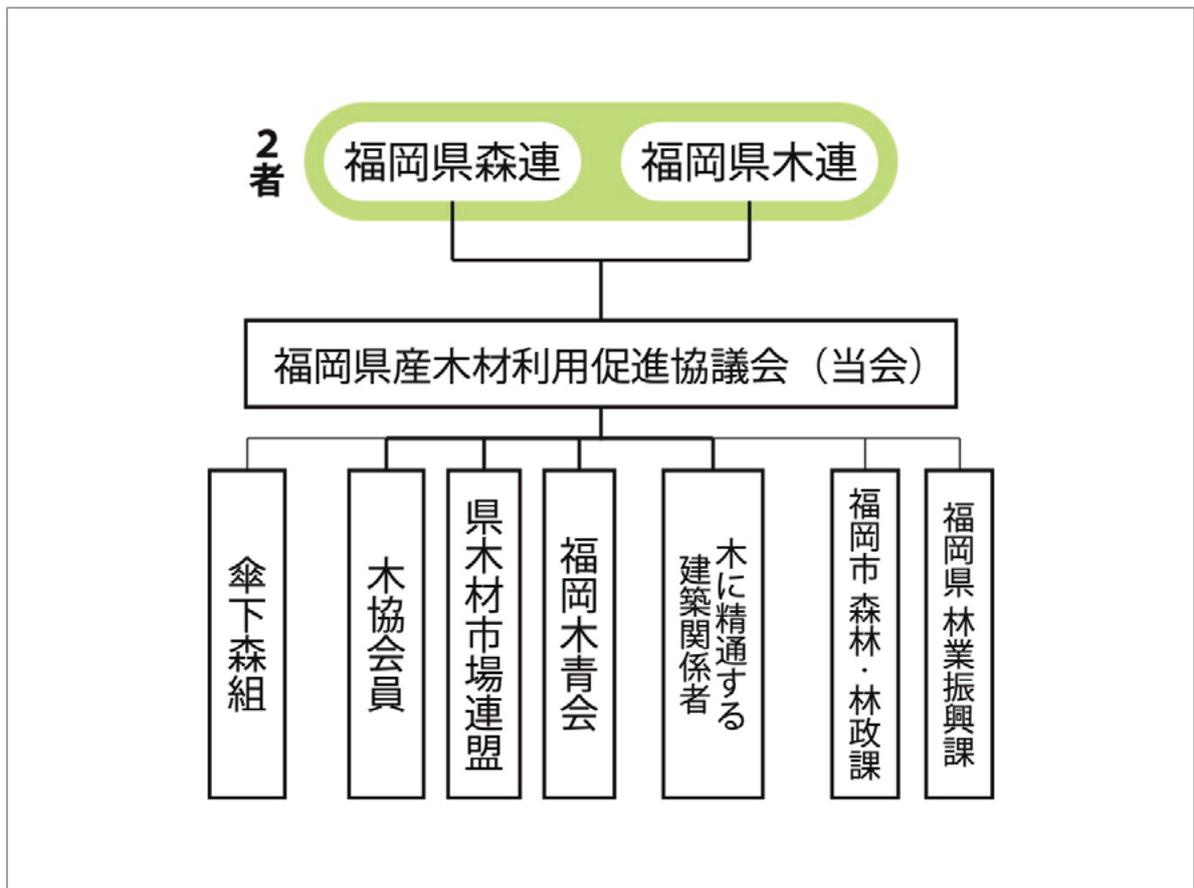
新協議会の立ち上げにむけた準備会(3回程度希望)の実施運営支援

1. 同様の取組み事例紹介、情報提供
2. 3者に関係する、非住宅分野の木造建築物の推進にかかる取組み事例の情報収集、周知の機会

#### 《当初想定した成果》

1. 課題抽出、関係者へのヒアリング・意見交換の記録等の作成
2. ロードマップ、会立ち上げまでのフローと助走期間3ヶ年程度の運営計画(案)
3. 類似協議会設立にかかる趣意書・規約等の収集と分析

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



❖ 福岡県産木材利用促進協議会

前身の勉強会 2016年（H28年）12月

協議会として 2018年（H30年）11月

# 身の丈議論

## 福岡県固有のおもな課題

○すでに地産「都」消費  
8割強、宮崎、大分

○民間物件も需要がある

### 〈住宅産業が基軸、薄利多売の収益構造〉

- 住宅向けは、1物件当りの売上・利益率が低いため、短い期間で多くの受注を熟したい。
- 競争が厳しい中小・零細企業に、新たな設備投資はむずかしい。
- 地元の丸太を買って。B・C材も買って。途中で不要と言わないで。
- 回転率を上げて早く生産・加工したい。特注で時間を失いたくない。
- 住宅市場に販売できない不良在庫を持ちたくない。

### 〈自然素材の宿命「ばらつき」〉

- 高度な生産設備でないので、歩留りを維持するには、A材を安く買いたい。
- 1つの原木から高い品質だけを選びすぐって（JAS化）は歩留率が向上しづらい。
- JASにできなかった木材も売れるように、住宅用流通製材の寸法で生産する。

# 福岡の林業・木材産業を まずは、建築士に知ってもらう

## 「住宅用流通製材」での応用を提言する (特に105角を用いてほしい)



建築士向けバスツアーの様子 2017/11/25



これまでに開催した建築士向けバスツアーのチラシ

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



地元の木材を利用して



スギ・ヒノキが中心に

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



製材を主とした木材生産システム

## 住宅用流通製材 で建築する

福岡県木連  
木材利用推進リーフレット  
作成協力

誌面の企画編集、モデル試設計は、  
Fukuoka Timber Building Labによる。  
2020/7 九州経済連合会九州型木造ビルモデルとして  
発表された案を福岡県木連で誌面化したもの。

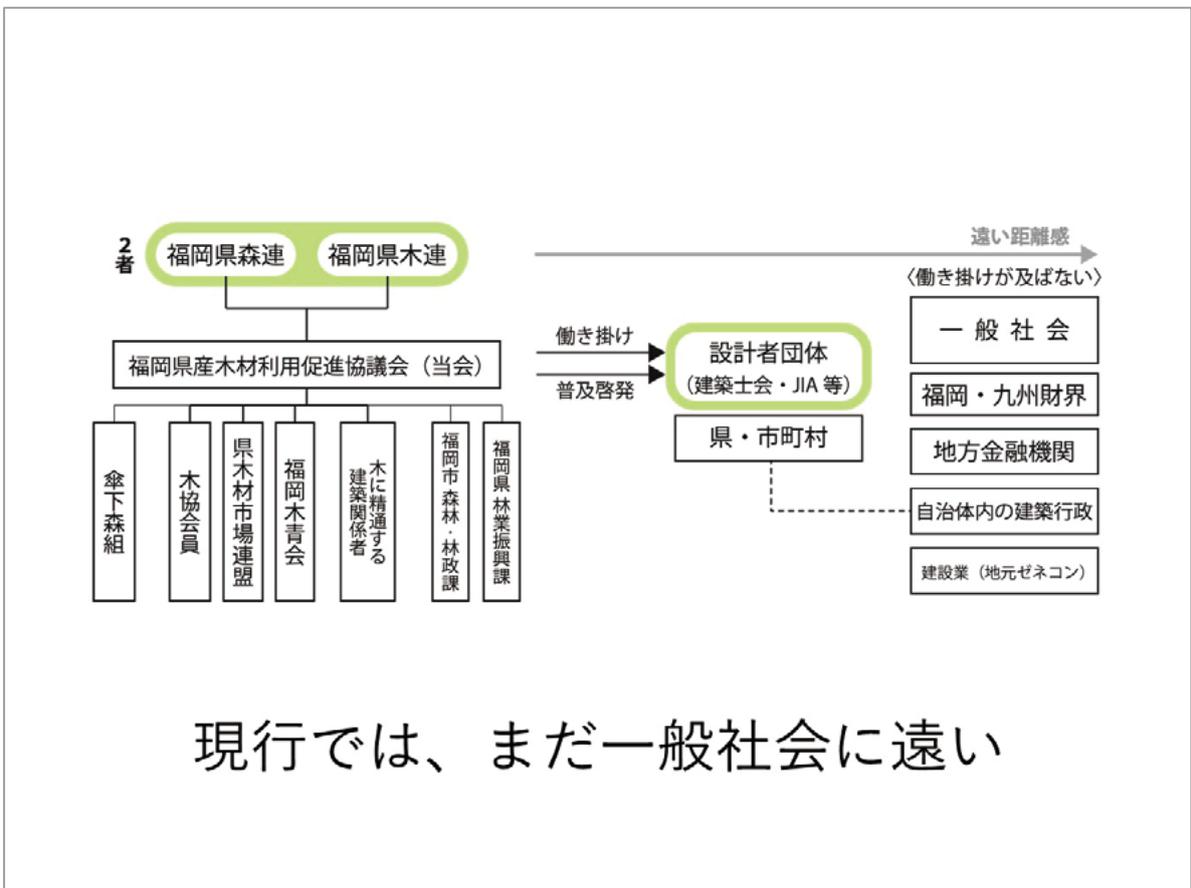
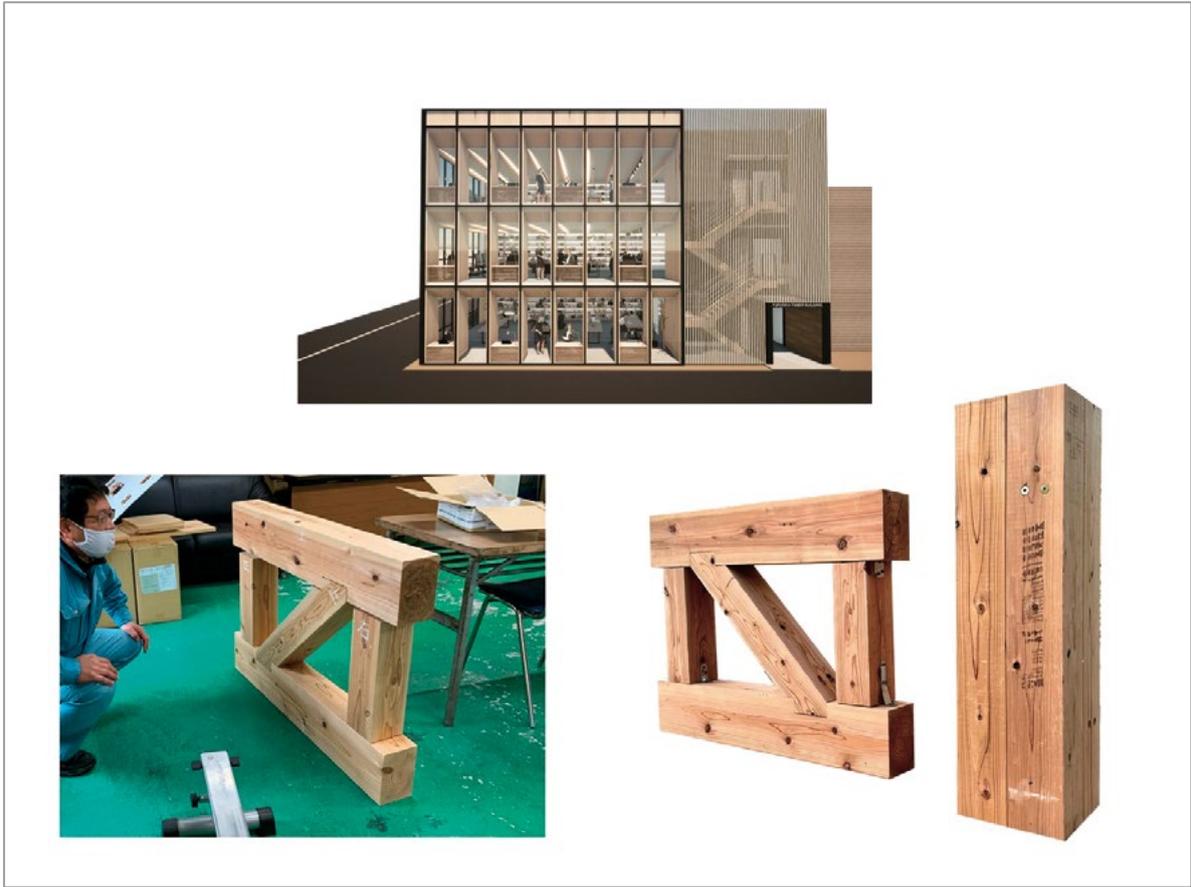


地域の木材の新たな使い方  
モクミビル<sup>サン</sup>  
木材は未来につなぐ  
循環可能な生物資源



木造二階建て  
オフィスビル  
福岡県木連  
Fukuoka Timber Building Lab  
によるモデル試設計

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



現行では、まだ一般社会に遠い



これからは…

新協議会（早期発足を目指す）

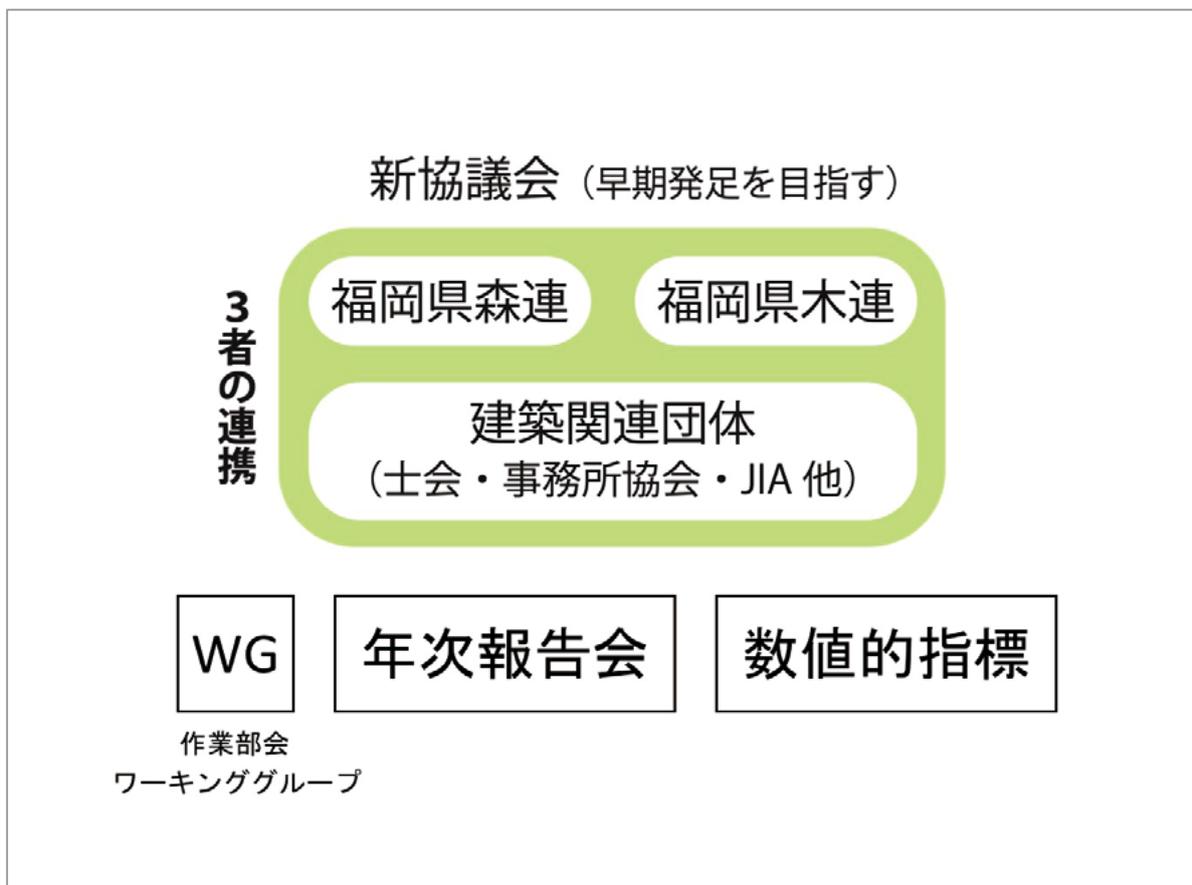
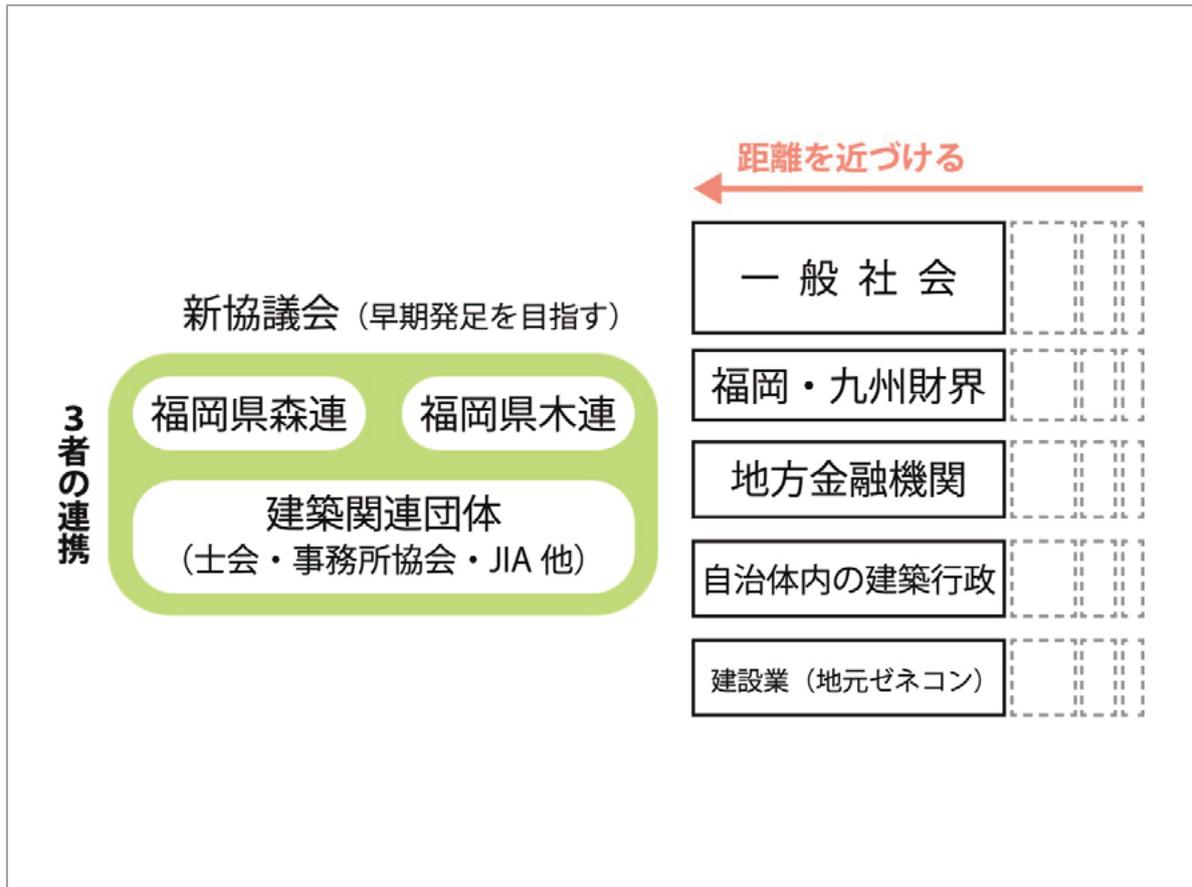
3  
者  
の  
連  
携

福岡県森連

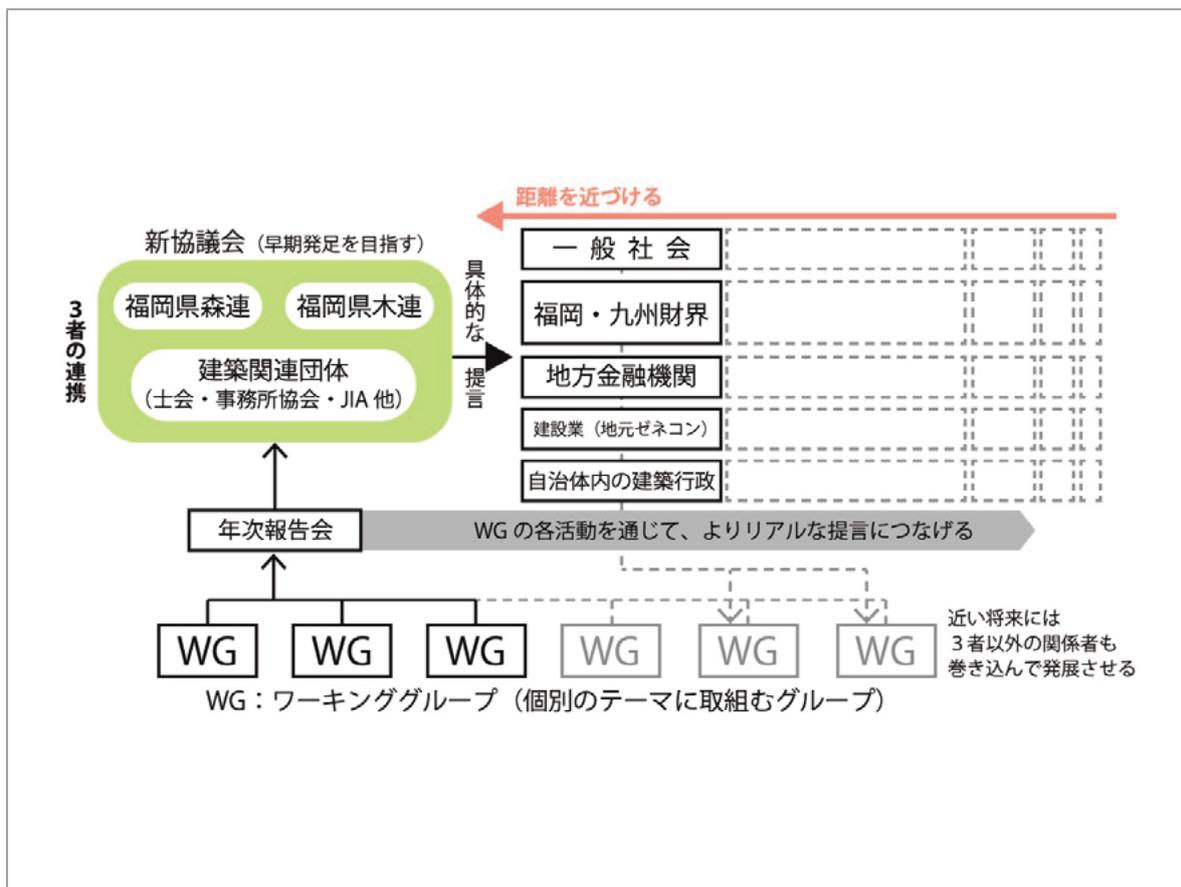
福岡県木連

建築関連団体  
（士会・事務所協会・JIA 他）

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



❖ 福岡県産木材利用促進協議会



■木活協コンサルタントとの事前打合せ（21/09/17 Web会議）

- 一人の識者の考えだけで、船団を率いるのを控える。
- 参加者から生の声を発言してもらう。
- 今回のワークショップを通じて、今後の活動を担うコアメンバーをどう集うのか、を見定める。

❖ 福岡県産木材利用促進協議会

# E

## 今回ワークショップの進め方

〈ワークショップの参加者〉（資料-2：各回参加者リスト）

- ・ 林業、木材生産・流通、設計、行政、事業・メディアの関係者
- ・ 上中下各10名ずつ、計30名（各グループ10名）
- ・ スケジュールが短かったので、公募できず、1本釣り。
- ・ 持論が強い論客（他参加者が発言しづらい）  
工務店・ゼネコンやプレカットの関係者（関心・日頃の付合が薄）  
今回は招かなかった（弱点）。

〈ワークショップの進め方〉（資料-4）

- ・ 自発的に考える、協働する、計画性を帯びて設定する。
- ・ 身近な出来事や要望から、地についた活動内容を導き出してもらいたい。
- ・ 数値で、現状や進捗を捉えるようになってもらいたい。

## 課題の抽出・整理 （従来手法、ブレスト・KJ法）

- 1回目 福岡県の木材利用が向かう「未来」・「夢」・「将来像」を広げる  
ブレスト（脳内の棚卸し）  
ポジティブシンキング（前向き思考）

ネガティブ要素は  
置き去りしてください。

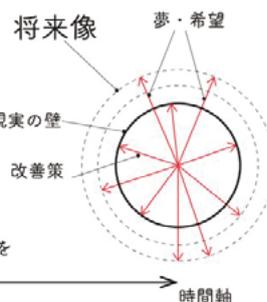
不安  
不満  
不平

問題  
留意点

依頼

等価交換

自分が、他人が、できそうな事を



## 具体的取組みの模索 数値的指標の設定

2回目 1回目を踏まえた「活動内容」・「数値的指標」を考える。

ターゲット (活動内容)

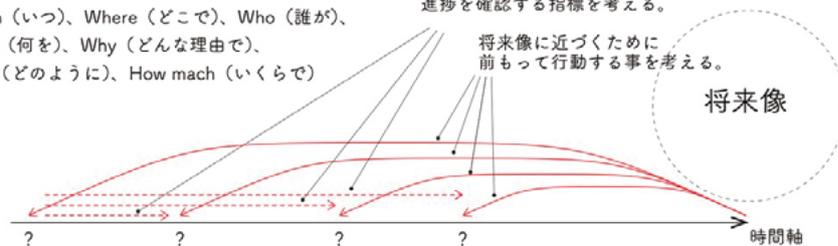
インディケータ (数値的指標)

[5W2H]

When (いつ)、Where (どこで)、Who (誰が)、  
What (何を)、Why (どんな理由で)、  
How (どのように)、How mach (いくらで)

実現に向けて前進しているか？  
進捗を確認する指標を考える。

将来像に近づくために  
前もって行動する事を考える。

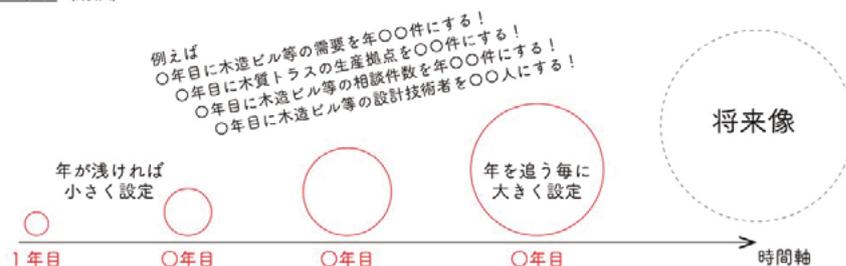


## ロードマップ (ゴール・マイルストーン) 数値的目標

3回目 2・3回目を踏まえた「中間目標」「期限」を仮設定する。

マイルストーン (中間目標)

ロードマップ (期限)



# 体験

## 「一連の組み方」

参加者同士のさまざまな意見  
異なる視点を汲み上げて  
まとめ上げる



❖ 福岡県産木材利用促進協議会



❖ 福岡県産木材利用促進協議会



❖ 福岡県産木材利用促進協議会



◆気付き1 川上が集まらない(マイナス面)

事前の呼びかけでは川上側の参加が少なかった(WS 1回目)

2回目の前に直接訪問して説得した。

- ワークショップに、負の印象  
「難しいだろう」  
「聞き入れてもらえないだろう」  
「何を言って良いか分からない」
- ⇒ 対策「ハードルを下げる」
  - ・専門的な議論はひとまず置いて、素朴な意見を活かす。  
「うちの丸太・原木・木材使って！」
  - ・成果もダウンサイジング  
新協議会の活動内容・ロードマップを決める  
→ 「立上げのための土壌・環境づくり」

◆気付き3 川中が集まらない（マイナス面）

直接の理由：コロナ拡大での影響防止で欠席（WS 3回目）

- 理由：効果の即効性を期待される。
- 長い会合と日常業務とが天秤にかかると、日常優先に傾く

活動を続けるには、  
3者の一部が欠けないよう  
「集まらない防止策」を実践することを痛感

◆気付き4 集まれば、議論できる（プラス面）

実働できる活動内容の1歩手前まで、きちんと議論できる。

- ・互いに影響を及ぼし合える。
- ・発言者の意見に耳を傾けることができる。

- （将来的に）利害の調整に至る  
（本質的な問題解決への）芽がある。

❖ 福岡県産木材利用促進協議会

◆ クリティカルな（的を得た）情報は参加者が咀嚼できるのか？

ハードルを下げ、素朴な意見を参加者が発言しやすいように設定される数値的根拠に実現性も下がり、活動の効果が出ない設定を行うデメリットも生じる。

議論の内容を難しくなることで、参加者や今後の活動を担う賛同者が消極的になるのを懸念したが、

コンサルとの相談のなかで、やはりクリティカルな情報は提示してみよう！と判断。

クリティカルシンキング：的を得るように考える

「建築着工統計」と「林業統計」との数値を用いて

福岡県 建築着工統計(R2)	木造建築物					鉄骨造建築物					RC造
	棟数	床面積の1棟当りの工事費	1棟当りの合計床面積	予定額	工事費予定額	棟数	床面積の1棟当りの工事費	1棟当りの合計床面積	予定額	工事費予定額	
住宅	13,639	1,646,888	120.75	27,341,739	2,005	1,635	255,371	156.19	5,950,581	3,639	384
産業用建築物	799	127,365	159.41	2,327,513	2,913	1,613	1,396,288	865.65	28,905,879	17,921	231
事務所	146	20,736	142.03	334,743	2,293	211	177,358	840.56	5,335,957	25,289	25
店舗	106	11,184	105.51	196,027	1,849	138	338,145	2,450.33	6,100,824	44,209	3
工場及び作業場	27	5,101	188.93	92,327	3,420	191	223,691	1,171.16	5,741,266	30,059	5
倉庫	104	9,056	87.08	96,423	927	457	240,528	526.32	2,989,359	6,541	9
学校の校舎	10	3,401	340.10	91,857	9,186	56	27,602	492.89	517,974	9,250	33
病院・診療所	48	12,196	254.08	231,236	4,817	28	26,253	937.61	817,600	29,200	16
その他	358	65,691	183.49	1,284,900	3,589	532	362,711	681.79	7,402,899	13,915	140

上記4件 383棟 130.88 m<sup>2</sup>平均 997棟 1,247.09 m<sup>2</sup>平均

× 30%のシェア獲得

福岡県の木材使用量の推計(R2)  $1,774,253 (m^3) \times 0.22 (m^3/m^2)$   
 $= 390,336 (m^3)$  製品材積 **木造ビル年間 300 (棟) × 1,000 (m<sup>2</sup>) × 0.25 (m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>) = 75,000 (m<sup>3</sup>)** 製品材積  
 ↓  
 福岡県スギ・ヒノキの年間成長量(R2)※ a) **768,000 (m<sup>3</sup>)** 立木材積  $\div 0.45$  ↓変換  
 $= 224,640 (m^3)$  製品=立木×0.65×0.45  $\div 0.65$   
 福岡県の製材用原木生産量(R2)※ **220,000 (m<sup>3</sup>)** 素材材積  
 $= 99,000 (m^3)$  製品=素材×0.45  
 期待したい**木材利用推進の効果 = 256,410 (m<sup>3</sup>)** 立木材積  
 (林業への効果)  
 年間成長量 a)に対して 33.4%の割合  
 主伐材積 b)に対して 84.1%の割合

□凡例

立木材積：立っている樹木の材積  
 素材材積：原木（丸太）の材積 = 立木材積 × (利用率60~70%)  
 製品材積：木材製品の材積 = (素材材積) × (歩留率40~50%)

福岡県産木材利用促進協議会/文書秘山作成日 R4/01/06

●情報提供1-1

「総力戦」 地域材を活かした木造建築の事例紹介  
(アルセッド建築研究所 大倉 靖彦 氏)  
一つの実物件を通じて、3者が緊密に関与しトライすることが、解決の糸口になる。

●情報提供1-2

「メディア側が捉える視点」  
(ガッシュプロダクト福岡 プロデューサー 落合 次郎 氏)  
一般社会のイメージしている「木」がニュースに取り上げる元になる。例え話として、工事現場の養生シートに一夜城のごとく木造建築を表した話題がむしろニュース性が高い。実物件の取材は、視聴者が木造という固定概念で捉えられてしまうため、視聴率はとれないと判断している。

●情報提供2

埼玉県・愛知県における協議会設立事例紹介  
(NPO法人木の家だいすきの会 代表理事 鈴木 進 氏)

「積み重ね」から「実践」へ。課題抽出から 地についた活動 へ。  
活動を活かす「営業」を導き出す。

◆気付き2 制度・取組みが活かされていないのでは？（マイナス面）

福岡県にも、埼玉県の事例に類似したアドバイザー制度はあるが、その結果が、関係者の末端まできちんと伝わっていない。  
→ 次の動き（打開策・再検討）に結びついていない  
→ 議論・活動・結果をオープンにしていく場・機会が必要  
「年次報告会」

❖ 福岡県産木材利用促進協議会

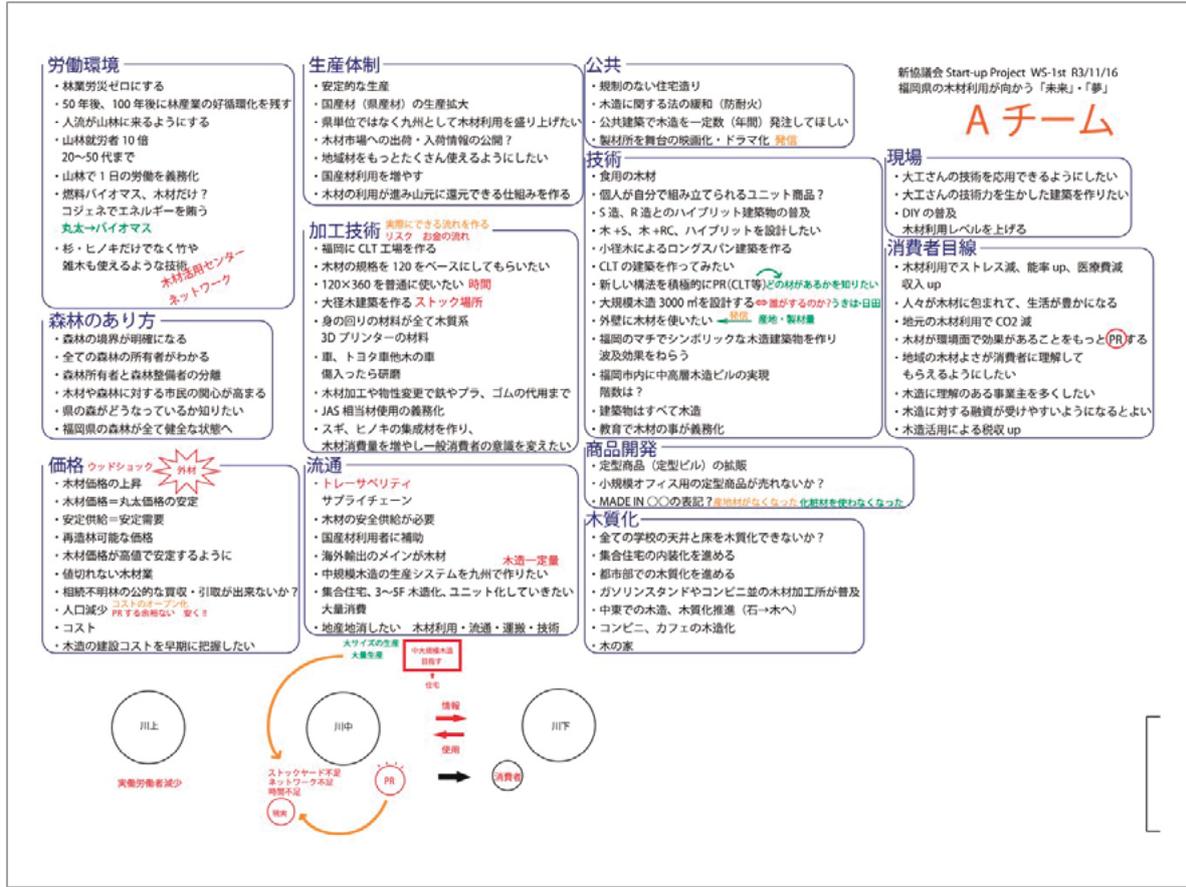
# G

## ワークショップ全体を振り返って

### 《議論の傾向》（資料-6）

- 初めての参加者同士でも、上中下3者間の問題全体を俯瞰できた。  
「労働環境の改善」「木材の需給、価格の安定、広域連携」  
「大人の木育」「まずは木質化」etc
- 活動内容の設定も、前項に沿って、  
上中下の課題を満遍なく取り上げることができた。
- 数値的根拠を示しても、現状に臆することなく、  
クリティカルに数値的な考察や目標設定ができた。
- 技術論と異なる視点から、現実的な活動を導く議論もあった。
- 各グループの議論は、三者三様  
Aグループ ストーリー  
Bグループ 数値積上げ  
Cグループ 日常の事物・愛着～身近な木材利用「床」

❖ 福岡県産木材利用促進協議会

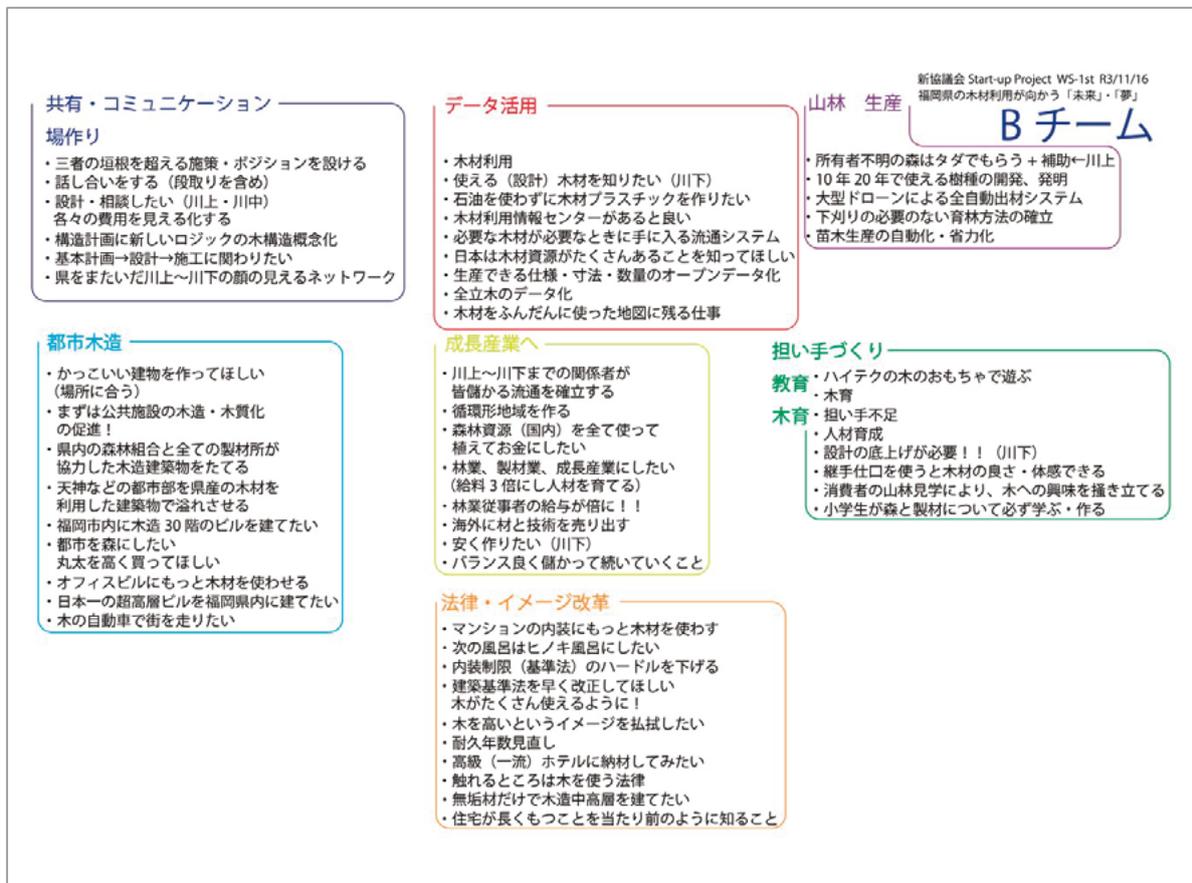
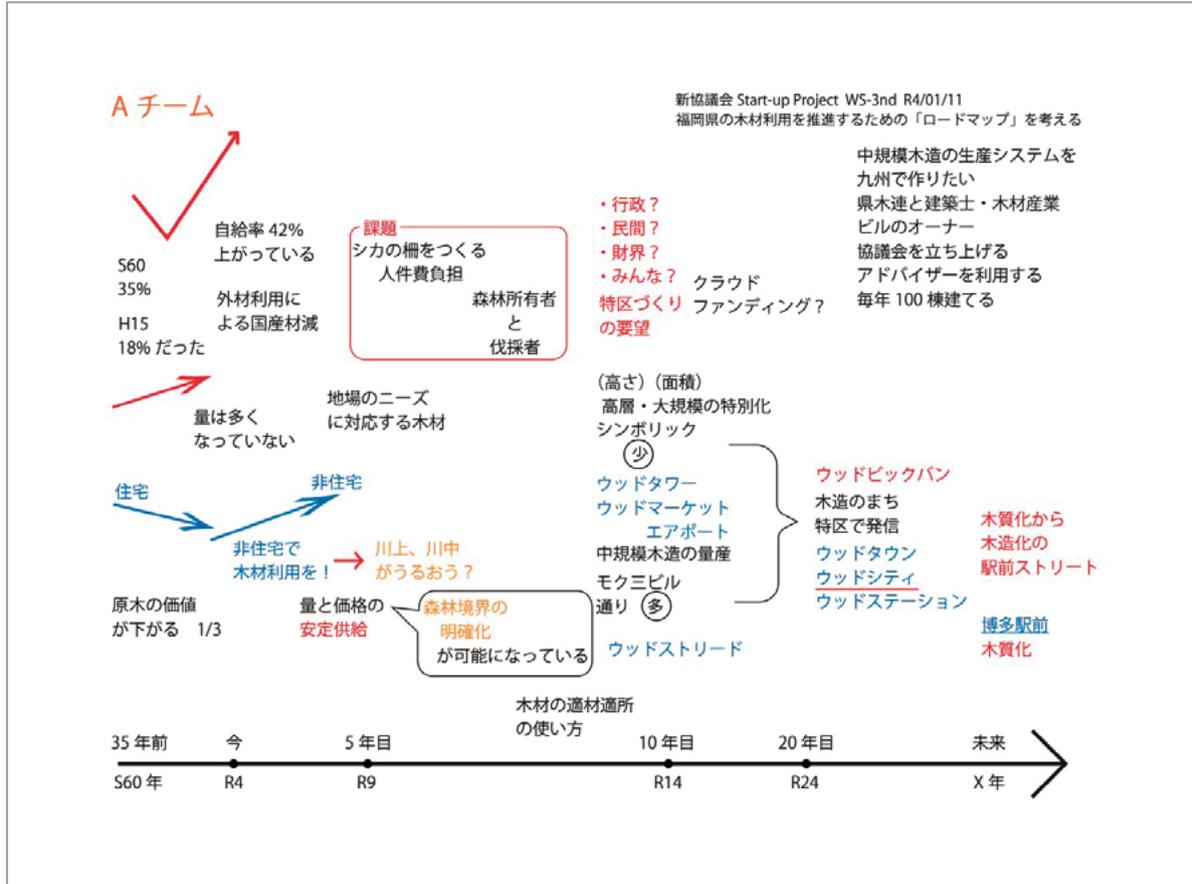


Aチーム

新協議会 Start-up Project WS-2nd R3/12/15  
福岡県の木材利用を推進するための「活動内容」・「数値的指標」

何のために	誰と誰がコラボして	誰に対して	どのような活動を行う	その指標は？です
福岡県の森林が全て健全な状態へ	所有林と森林組合と消費者	みんな(SDGs)	切って使って植える	再造林率と伐採量のバランス 出荷率
減災・防災 脱炭素				
山で働く人が増える	森林組合 リクナビ ハローワーク	田舎暮らしが好きな人	適切な補助金配分	森で働く人の数
中規模木造の生産システムを九州で作りたい	県木連と建築士 木材産業	ビルのオーナー	協議会を立ち上げる アドバイザーを利用する	毎年10棟建つ
福岡のマチでシンボリックな木造建築物を作りたい	技術者と設計者 行政と九経連 経済界	九州市民 福岡に来る人に対して	木造タワーを作る CLTの長材を作ってみよう 玄関口を木造ビルにする 空港を木造ビルにする	一棟あたり木材使用量(5,000㎡級)
木材利用の理解	映画業界と木材業界	市民	製材所が舞台の映画化・ドラマ化	映画をみて業界に就職する人の数
木育	木材関係者と教育関係者	子供	伐採、植林体験(追体験)	体験者数(小学生全員)

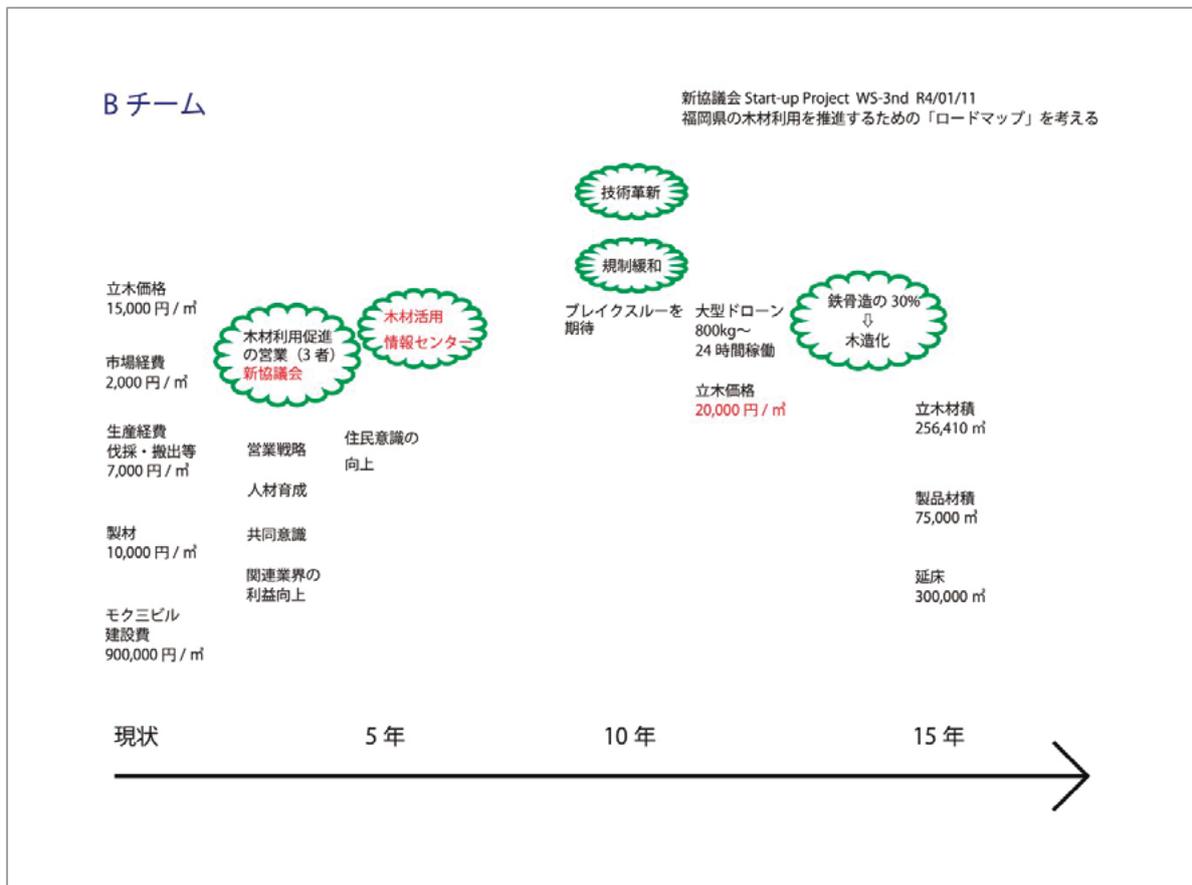
❖ 福岡県産木材利用促進協議会



❖ 福岡県産木材利用促進協議会

**B チーム** 新協議会 Start-up Project WS-2nd R3/12/15  
福岡県の木材利用を推進するための「活動内容」・「数値的指標」

何のために	誰と誰がコラボして	誰に対して	どのような活動を行う	その指標は？です
設計技術の習熟・拡大	川上・川中 大学 設計施工団体の協力でレベルアップ	設計者	川上 + 川中の講習情報支援 レベルアップレクチャー	アドバイス数 アクセス数
施工技術者の技術向上・育成				
森林を守るため	森林組合 行政	山主 市町村	植林活動	循環率% 見学者数
森林資源の循環	川中・川下の住民	林業事業者	IT技術の活用 山林見学会(産業化)	
都市部を県産材で溢れさせる	行政(県 + 市町村) + 川上・川中・川下 森林組合 製材加工業	発注者 設計団体	情報を公開(行政を含め)	モデルの数 実現建築数
木造アドバイザー制度活性化		川上・川中・川下		
職人、担い手不足解消	経営者 メカニック	施工者	IT化 機械化 インターン制度 体験就労	就労人口の増加 建物の着工数の増



❖ 福岡県産木材利用促進協議会

**所有者労働者利益**

- 木の価格はウッドショックのそのまま将来もいけば☆
- 山もらったらうれしい世の中にする
- 現場労働者の平均年収 500万円以上
- ウッドショックがあってようやく所有者にお金が残った実績
- 所有者が自分の山を認識してほしい
- 現場作業者の賃金向上→労働災害0
- 山林所有者への利益価値の相続
- 福岡県産木材の利用促進
- 林業関係者の労災0
- 住宅産業
- 本当の利益を知ること

**木材利用いろいろ**

- 日本の建築物全ての木造化
- 至る所に木質空間
- 木でランブシェードを今の照明にあとづけできるもの
- 木造建築物解体0
- 既存の浴室に貼って自分リフォーム木パネル
- 建具にもカベにも使えるパーツ
- シンボリックな木造建築
- 木造用途を新たに
- 保育園はすべて木造でつくる

新協議会 Start-up Project WS-1st R3/11/16  
福岡県の木材利用が向かう「未来」・「夢」

## Cチーム

**木価格供給**

- ウッドショックで木材価格が上がったがこのまゝいって欲しい
- 現在の林価の維持
- 木材価格  
スギ 15,000円/m<sup>3</sup>  
ヒノキ 22,000円/m<sup>3</sup>
- 木材成長周期 5~10年で収穫または肥料
- 丸太のJAS化
- 林業を高所得者にする
- 山林の基盤整備
- レジャーで林業
- 所得不明山林0
- 国土交通省、林野庁再編
- 木材は全て色、におい、木目等ちがうと皆さん認識してほしい
- 製材製品を安定供給したい
- 木材市場の見える化!
- 次世代に続く林業
- 林野庁がもっと力をつけて欲しい
- JASの内容をもっと簡単にして利用できるように
- 取引先は常に安定取引してほしい

**気候風土 省エネ**

- 茅葺屋根が残る新しい姿の茅葺の屋根
- 全員田舎暮らし
- 屋根に太陽パネルが乗っていない事!!
- 屋(家)並が勾配屋根でそろろう
- 伝統構法の家が残る

**木育 子<教育者**

- 子供たちへの森林イメージ定着(良いことの)
- 若者のなりたい職業 林業関係
- 縁側の再評価 気持ちいい。
- 在来木造く伝統木造
- 木を伐ること、使うことに対しての市民県民理解強化 環境に良いなど...
- 子供から大人まで木育
- 教育者の木育
- 山のデータ管理 人育成、組合増強
- 自分が住む家の木造材を山へ行って切る
- 子どもの家具を家族で手づくりできるような木材キット! 安いのがよい
- 公園のベンチを木で。地域住民でつくる
- ドローン、AIで日本の国土100%管理

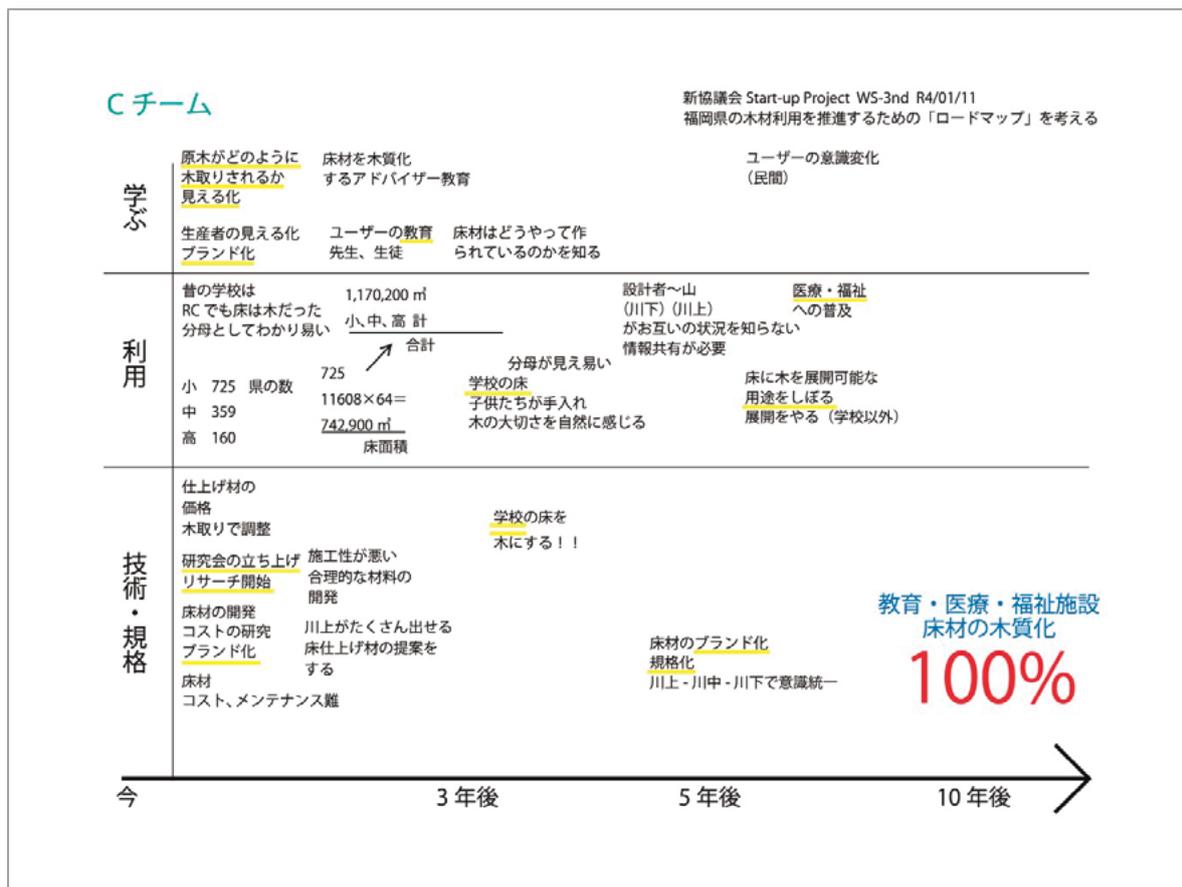
**人材・技術**

- 川上~川下まで精通した行政職員の育成
- 木造建築物発注者を育てる
- 公共建築物の標準図に木造を加える(福岡市など)
- 木造の固定概念(燃える、耐用年数短い...、コストなど)を変化させる→イメージアップ
  - 農林水産業

新協議会 Start-up Project WS-2nd R3/12/15  
福岡県の木材利用を推進するための「活動内容」・「数値的指標」

何のために	誰と誰がコラボして	誰に対して	どのような活動を行う	その指標は?です
木材価格の安定	木材利用促進を望む全ての人 ⇄	施主 使う人	出荷調整 (外材とも)      市場原理を学ぶ 見える化 協定を結ぶ	学んだ数 出荷調整数 協定結んだ数
山元の利益還元のため	重機メーカーと 森林組合	森林所有者	新しい技術を提供	新しい技術の導入数
子供から大人まで木育	福岡県 森林復興課と 森林組合	若い家族 学校の先生	森林を伐採する意味を教える 森林施業の現場見学会	見学会の数
全ての建築物の 木造化、木質化	設計者と 建材メーカー	発注者	木材が使える部分は全部木材で!! シンボリックな木造建築 耐火大臣認定の木製建具を作成 加工技術の改革 建材になるまでを学ぶ	年間建てた棟数 木材使用料の割合
屋根に太陽光パネルが 乗っていない事!!	日本の建築を 愛する全ての設計者	建築物	太陽光パネルがないエコな建物を作る	太陽光パネルがない エコな建物の棟数
屋並が勾配屋根で そろろう				

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



《参加者の主な感想》 (資料-7)

- 3者連携の意義を実感した。
- 聞かないと分からなかった。
- これまで、対面する関係 (川上vs川中) (川中vs川下) までは意識できていたが、3者が繋がる場所で生まれる関係性を知るきっかけになった。
- 営業戦略・営業活動までつなげる必要性を認識した。

❖ 福岡県産木材利用促進協議会



(福岡県での) 3者連携のための土壌・環境の現状が見えた。

- 当初は、初めての参加者が居り、3者がバランス良く集まらない中では、3者連携の意義を認識するに留まると予想していた。
- ワークショップが始まると、いままで知らなかった上中下の現況に丁寧に耳を傾けることができ、上中下間で問題視されている事柄をピックアップして、自身が活動できる範囲から活動内容・数値的な指標・目標値を探ることができていました。
- 3者がきちんと集まれる場が整えば、参加者が自発的に、福岡県内での問題点や現実的な活動を抽出して、ロードマップを追いかけて、クリティカルで実務的な方向性を見出せた。
- とはいえ、議論のまとめり方は三者三様。参加者を公募できなかったのが参加者を増やして、もっと意見の幅を増やすのが良いと思われる。現時点は、具体的な活動内容を絞る段階、ではない。

●組織づくりの課題抽出

1) 集まらない防止策

スケジューリング  
3者間の行事を調整、欠席しづらい環境をつくる。

2) 幅を広げる

具体的な活動内容を定める前に、幅を広くして、  
身の回りへの気付きを増やす。  
→ 地についての活動、実働する人たちを増やす基盤になるだろう。

3) コアメンバーが新たな参加者を牽引する形、の模索

毎回ゼロから仕切り直す必要はない。（前項2に関連して）  
「今回の積み重ね」と「新しい意見」と、をみんなで考える。  
一人・一部の考えに偏らないように。

●次年度の取組みの骨子

1) きちんと集める。

確実に集まれる時期を最優先にし、  
関係団体への、さらなる根回し、確実なスケジュールを押さえる。

2) 再度同様のワークショップを開催

参加者が多く集まれそうな時期（次年度（R4）の前半4～7月か？）  
幅を広げるきっかけを、今回と同様のワークショップで生み出す。

3) 新協議会の準備会

今回ワークショップの参加者からコアメンバーの募集を呼びかける。  
前項の課題、設立までの行程を含めて、コアメンバーで定めていく。

●次の次（新協議会立上げ以降）を見据えて

木造・木質化、営業戦略・営業活動につなげ、  
近い将来には、実物件を通じた活動で具体性を持たせる。

❖ 福岡県産木材利用促進協議会

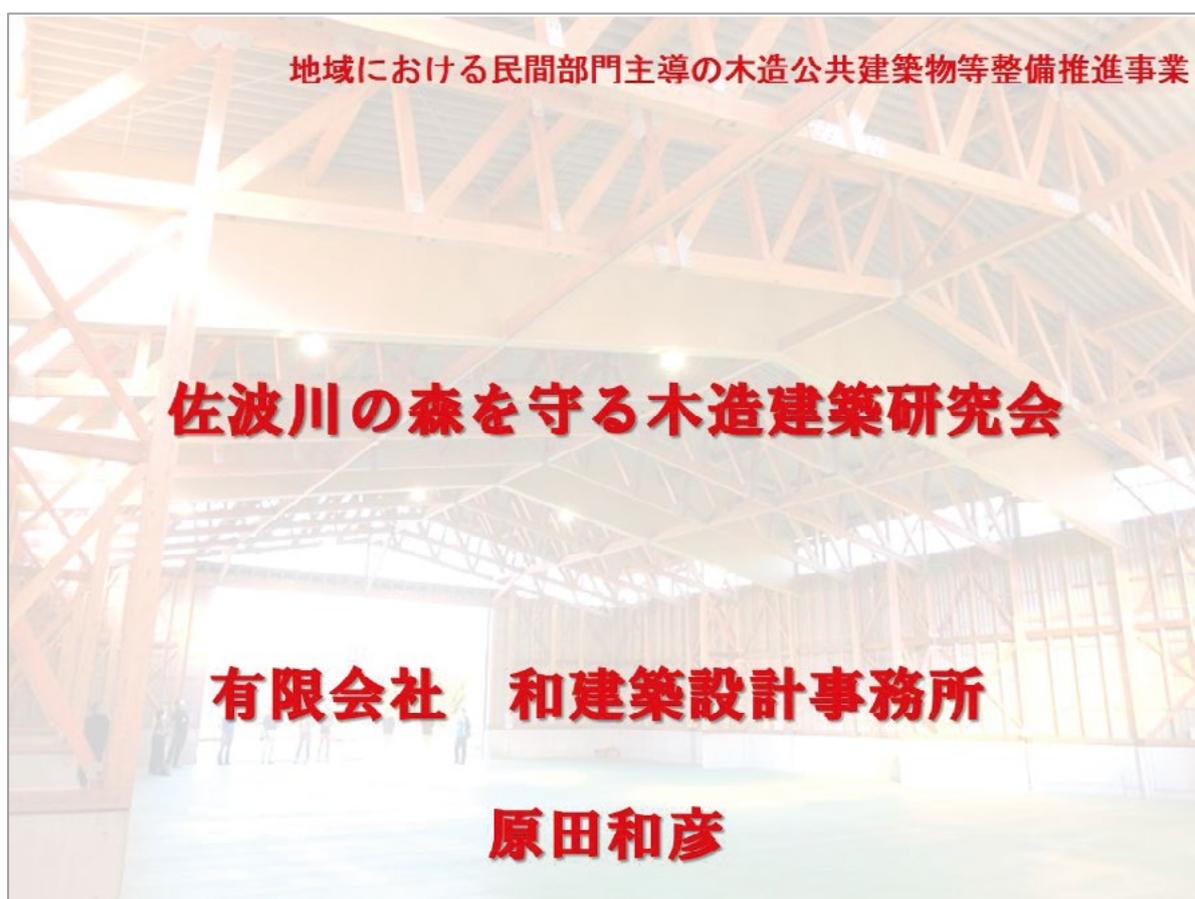
## 新協議会の活動の柱となる可能性のある取り組みの例

部会イメージ	活動イメージ
県産材の情報集約 ・情報発信部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山や木材の情報：生産できる木材の種類（製材／他）、樹種、寸法（長さ・断面）、品質（乾燥・強度）、数量、納期、コスト。</li> <li>・木造化・木質化情報：公共発注、民間発注の情報収集。</li> <li>・発注者向け相談窓口、既存木材アドバイザー制度の再検討。</li> </ul>
利益還元・労働環境改善部会	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・BC材・大径材利用や歩留り・回転率・不良在庫等々、福岡の林業・木材産業を改善する視点を踏まえているか、他部会の活動を考察し、打開策や改善策を提示する。</li> <li>・業界や関係者の間を取り持ち、効果的な活動環境をサポート。</li> </ul>
ウッドプロモーション部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア・事業者側からの視点も踏まえたプロモーションを模索。</li> <li>・身近な木材利用 教育委員会等へ学校の内装（特に床）の木質化の働きかけ、営業ツール作成（無垢フローリングの規格化・ブランド化）。</li> <li>・中層の「量産型」木造ビル・木造集合住宅の試設計＋木材調達・コストシミュレーションの実施、営業パンフレットの改訂・継続。</li> <li>・木育プログラム作成：大人を含めた視点が大切。林業～製材業～建築の映画化・ドラマ化、伐採・植林体験プログラム、手作り家具キット。</li> </ul>
人材育成部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意匠設計者・構造設計者の育成：上記の試設計を川上・川中を交えてワークショップにより共同設計。</li> <li>・行政職員：林業・木材産業・建築に精通した職員育成プログラム開発。</li> </ul>

ご静聴ありがとうございました。

6) 佐波川の森を守る木造建築研究会

地域団体等	発表者	コンサル
佐波川の森を守る木造建築研究会	佐波川の森を守る木造建築研究会 代表 <small>ほらだ かずひこ</small> 原田 和彦	市浦ハウジング &プランニング



## ❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会



## 佐波川の森を守る木造建築研究会の発足

### 発足の理由

山口県は木造後進県

公共建築物の木造率全国 40 位（全国平均 11.7% に対し 7.7%）

要因は木造を推進する技術者グループの不在にある

### 県内の人財の結集

1：県内の業者で木造建築を作りさける集団をつくる

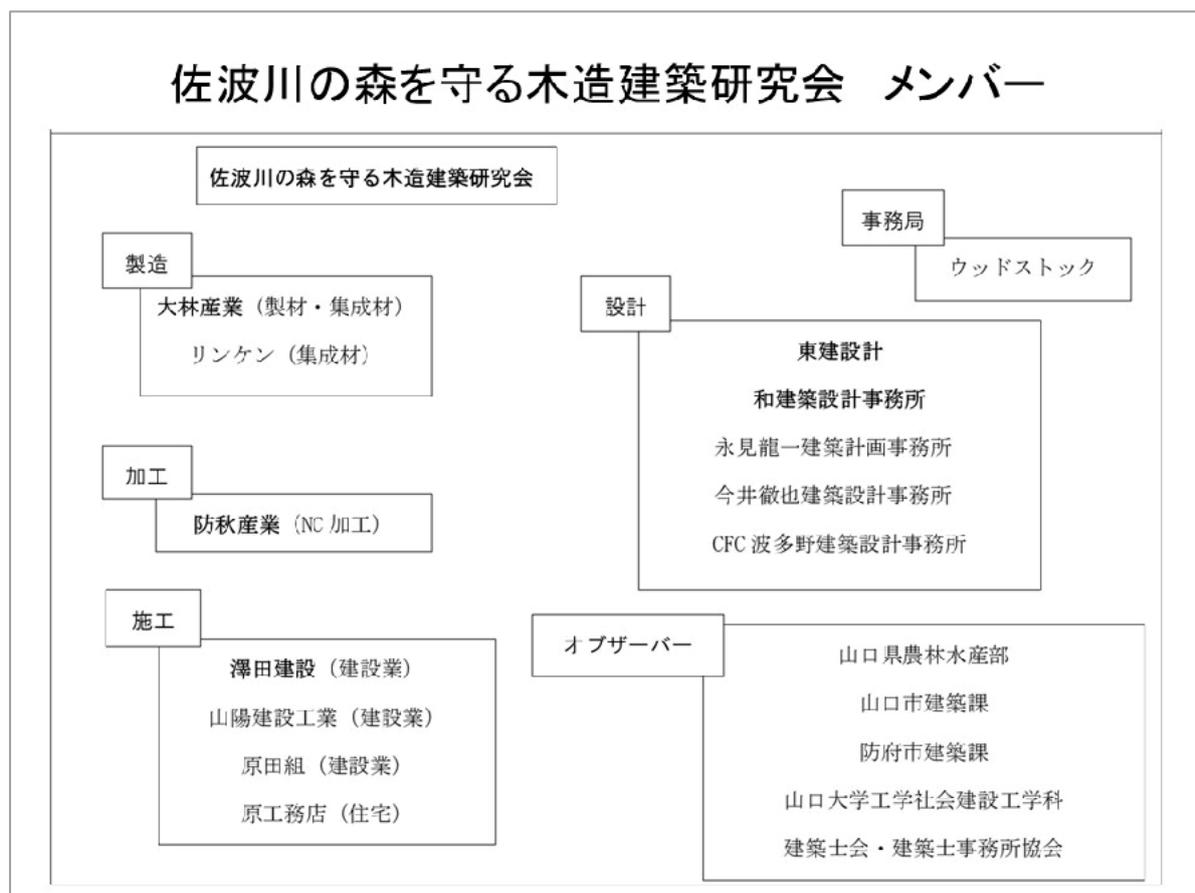
2：県内唯一の 1 級河川佐波川の流域にある木材資源の活用を目指す

この目標のために下記のリストにあるように製造から成型・加工・設計・構造・施工のすべての業種の企業が参加した研究会を設立、地域の中心を流れる佐波川を会の名称とした。木造建築にオーソリティーである原田浩司氏を講師に、其々の分野がいかに連携すれば目的を達成できるか、日頃交流の少ないメンバー間の意識の共有を図る勉強会がスタートした。

### 行政の後押し

勉強会の継続と少しずつ実績を作ることにより、行政の方や建築士会との交流も生まれ、現在もしっかり応援していただけるようになった。

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会



### これまでの活動経緯

- 2017年11月9日
- 2018年2月13日 モックの森
- 2018年4月28日 トピア **含水率**
- 2018年8月10日 株式会社リンケン **構造用集成材**
- 2018年10月30日 大林産業佐山事業所 **トラス**
- 2019年1月9日 陶地域交流センター **非住宅建築物の事例**
- 2019年4月26日 もっくの森  
**非住宅建築物の具現化に向けて**
- 2019年8月16日 澤田建設本社  
**木造建築物の実例～木造の建方**
- 2019年10月26日 もっくの森  
**地域材を使った木造建築物の実例**

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

### 山を知る



### 製材 乾燥



❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

## プレカット 特殊加工機フンテガー+3次元CAD



## 第1回WSご案内

「民間部門主導の木造公共建築物等整備推進」を活用いたしましたWSを下記で開催させていただきます。参加ご希望の方は、ご連絡お願いいたします。

日時：11月12日（金） 13:00～16:00

場所：澤田建設株式会社会議室

（住所）防府市開出西町23番1号

参加費：500円（資料代）

講演テーマ：「なぜ山口の木は使えたのか、使えなかったのか」

講師：内田文雄 先生

龍環境計画代表、山口大学名誉教授

タイトル（仮）「山口県での木造建築物設計時の留意点・・・他県と比較して」

ディスカッション

議題「山口の木を使った、県内事業者の手により製造・加工・施工した建築物の木造化・木質化を促進するための課題を探る」

参加者全員参加

ゲスト(予定): 古松洋一様（さくら設計）、宮原龍一様（宮原龍一PLUS建築設計室）

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

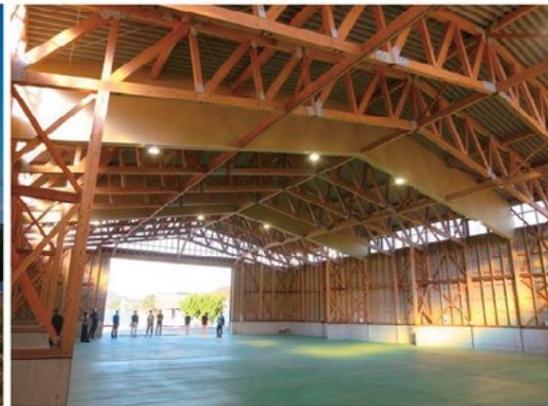
## 第1回 自主勉強会～完成見学会

開催月日：令和3年10月15日（金）

1，防秋産業工場棟完成見学会

時間：16:00～17:00

参加者：12名



## 第1回 自主勉強会～幹事会

幹事会

時間：17:30～18:30

開催場所：KAZAGURUMA 2階

内容 ・WSの講師の依頼者決定

第一回開催日 11月12日(金) 13:00～17:00

場所 澤田建設株式会社社会議室

講師 山口大学工学部名誉教授 内田文雄先生

第二回 山田憲明構造設計事務所代表 山田憲明氏

第三回 芝浦工業大学名誉教授 三井所清典先生

第二回WSおよび第三回WSの日程は講師のスケジュールを、まずは確認。

メンバーが関与した、建物概要の作成

参加者および幹事の名簿

代表	兼重正司	東建設計	現地参加
幹事	藤田隆広	澤田建設	現地参加
幹事	原田和彦	和建築設計事務所	現地参加
幹事	大林真信	大林産業	現地参加
幹事	秋山泰三	防秋産業	現地参加
事務局	原田浩司	ウッドストック	現地参加
オブザーバー	樺尾美佳	山口県農林水産部ぶちうまやまぐち推進課	現地参加
アドバイザー	奥茂謙仁	市浦ハウジング&プランニング	ZOOMで参加
アドバイザー	村田浩之	市浦ハウジング&プランニング	ZOOMで参加
アドバイザー	牧 祐生	市浦ハウジング&プランニング	ZOOMで参加

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会



第一回開催日 11月12日(金) 13:00~17:00  
 場所 澤田建設株式会社会議室

講師 内田文雄 山口大学工学部名誉教授

	氏名	所属先		氏名	所属先
1	山本 聡	KINOKA	7	藤田隆広	澤田建設
2	櫛尾美佳	山口県農林水産部ぶちうまやまぐち推進課	8	兼重正司	東建設計
3	池田和之	山口県山口農林水産事務所森林部	9	原田和彦	和建築設計事務所
4	石橋亮太	原工務店	10	大林真信	大林産業
5	村谷良太	原工務店	11	秋山泰三	防秋産業
6	古屋利文	原工務店	12	原田浩司	ウッドストック

## 第一回 WS

(地域材を活用した木造建築物促進に向けての提案)  
 ……「3つの“つくる”を実現」

- ① 機会に応じ手木造建築物を造り、  
紹介できる「実例をつくる」
- ② 建築主やユーザー等に紹介・アピールできる  
「事例集をつくる」
- ③ 木造化・木質化、地域材活用等に関する  
相談窓口をつくる」

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

## 第2回WS 自主勉強会～幹事会

開催日時：令和3年11月22日（月） 16:00～18:00

開催方法：ZOOMにて

第1回WSの議論を踏まえ、3つの創る を協議

幹事	藤田隆広	澤田建設
幹事	原田和彦	和建築設計事務所
幹事	大林真信	大林産業
幹事	秋山泰三	防秋産業
事務局	原田浩司	ウッドストック
オブザーバー	樺尾美佳	山口県農林水産部ぶちうまやまぐち推進課
木活協担当者	奥茂謙仁	市浦ハウジング&プランニング
木活協担当者	村田浩之	市浦ハウジング&プランニング
木活協担当者	牧 祐生	市浦ハウジング&プランニング

## 第二回 WS

開催日時：令和3年12月22日（木） 13:30～16:30

会場：山口県中央森林組合 山口総合支所

参加者：計43名

1. 講演 山田憲明 氏

タイトル：「地域産材を活かした木造建築物の事例」（約80分）

2. 討論（司会進行：奥茂）

テーマ「地域産材を使って魅力的な木造建築物を実現するために必要なこと」

- ① 討論1：山口の木を活かすために必要な仕組みについて
- ② 討論2：市外、県外の構造設計者との連携・コラボについて



❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

地域における民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業  
佐波川の森を守る木造建築研究会 第2回 WS

テーマ：リーディング構造家の地域産材利用の事例から学ぶ

日時：2021年12月22日（水） 13:30～16:30

受付 13:15～

場所：山口県中央森林組合 山口総合支所

住所 山口県山口市大内長野 1978

講演：山田憲明 さん（山田憲明構造設計事務所主宰）

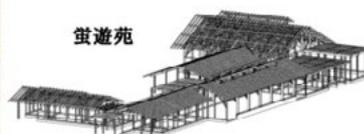


「地域産材を活かした魅力ある木造建築物の事例」

討論会：議題1 山口の木を活かすための必要な仕組み（案）の提案

議題2 山口市・防府市外、県外の構造設計者との連携

司会：奥茂謙仁 さん（㈱市浦ハウジング&プランニング 専務取締役）



地域における民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業  
佐波川の森を守る木造建築研究会 第3回 WS

テーマ：山口の木を活かす建築物を創る

日時：2022年1月27日（木） 13:30～16:30

受付 13:15～

場所：山口県中央森林組合 山口総合支所

住所 山口県山口市大内長野 1978

講演：三井所清典 先生（芝浦工業大学 名誉教授）



「地域産材を用いた木造建築を地域の力で実現する」

討論会：議題1 「佐波川の森を守る木造建築研究会」の活動報告

議題2 地域の設計者や地域団体の活躍に期待するもの

司会：奥茂謙仁 さん（㈱市浦ハウジング&プランニング 専務取締役）



❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

## 小野小学校



## A 建物概要

## ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	3,324	在来工法	3,032
2階			
延べ面積			

## ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	構造用集成材	ベイツ	550	
	構造用製材			
造作材		ベイツガ	170	
仕上げ材		ナラ	30	壁材
		ヒノキ	50	床材

## B 設計・施工

- ① 発注者:
- ② 設計者: 意匠: 浪速設計  
構造: 山佐木材
- ③ 施工管理: 防府市建築課
- ④ 元請業者: 銭高組・澤田建設・原田組 JV
- ⑤ 原木供給: 輸入材
- ⑥ 製材工場: 輸入材
- ⑦ 乾燥工場: 輸入材
- ⑧ EW製造: 山佐木材
- ⑨ 施工図・加工図作成: 山佐木材
- ⑩ 仕口・継手加工: 山佐木材
- ⑪ 建て方業者: 山佐木材
- ⑫ 竣工年: 2003年

## 徳地中学校



## A 建物概要

## ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	1,343	軸組工法	1,343
2階	1,108	軸組工法	1,108
延べ面積	2,451		2,451

## ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	構造用集成材	スギ	約500	
				山口県森林組合連合会 丸太を100m3供給
				大林産業 ラミナを100m3供給

## B 設計・施工

- ① 発注者: 山口市
- ② 設計者: 意匠: (有) 双樹設計  
構造: 三井住商建材
- ③ 施工管理:
- ④ 元請業者: 徳林井原建設共同企業体
- ⑤ 原木供給: 奈良県、山口市
- ⑥ 製材工場: 肝付木材協同組合、大林産業 等
- ⑦ 乾燥工場: 奈良県内製材業者、肝付木材協同組合
- ⑧ EW製造: トリスミ集成材・山佐木材
- ⑨ 施工図・加工図作成: 三井住商建材
- ⑩ 仕口・継手加工: トリスミ集成材・山佐木材
- ⑪ 建て方業者: 三井住商建材
- ⑫ 竣工年: 2006年

## 長登銅山文化交流館



### A 建物概要

#### ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	369	在来工法	369
2階			
延べ面積	369		369

#### ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	構造用集成材	杉	30.94	E 6 5. F225
一般材		杉・桧	8.072	
造作材		杉	7.88	
仕上げ材		杉	12.44	

### B 設計・施工

- ① 発注者：美東町
- ② 設計者： 意匠：(有)東建設  
構造：原田浩司
- ③ 施工管理：(有)東建設
- ④ 元請業者：高山産業株式会社
- ⑤ 原木供給：旧美東町 町有林
- ⑥ 製材工場：山佐木材株式会社
- ⑦ 乾燥工場：山佐木材株式会社
- ⑧ EW製造：山佐木材株式会社
- ⑨ 施工図・加工図作成：山佐木材株式会社
- ⑩ 仕口・継手加工：山佐木材株式会社
- ⑪ 建て方業者：高山産業株式会社
- ⑫ 竣工年： 2009年

## 澤田建設本社キャンパス(本社棟)



### A 建物概要

#### ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	752.64		752.64
2階	242.52		242.52
延べ面積			

#### ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	CLT	スギ・ヒノキ	51.8260	
	集成材	米松	41.2614	
	LVL	ニュージャーバイン	54.3602	
造作材				
仕上げ材				

### B 設計・施工

- ① 発注者：澤田建設株式会社
- ② 設計者： 意匠：澤田建設  
構造：アーキストラクチャー級建築士事務所
- ③ 施工管理：有限会社 和建築設計事務所
- ④ 元請業者：澤田建設株式会社
- ⑤ 原木供給：
- ⑥ 製材工場：
- ⑦ 乾燥工場：銘建工業株式会社
- ⑧ EW製造：銘建工業株式会社
- ⑨ 施工図・加工図作成：銘建工業株式会社
- ⑩ 仕口・継手加工：銘建工業株式会社
- ⑪ 建て方業者：有限会社ヤマナカ建工
- ⑫ 竣工年： 2019年

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会

## 澤田建設本社キャンパス(ゲストハウス)



## A 建物概要

## ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	109.62		109.62
2階			
延べ面積			

## ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	CLT	杉楡HB	43.9175	
	集成材	米松	6.0095	
仕上げ材	CLT	杉楡HB	1.6418	

## B 設計・施工

- ① 発注者： 澤田建設株式会社
- ② 設計者： 意匠： 有限会社 和建築設計事務所  
構造： 株式会社 倉敷構造設計室
- ③ 施工管理：有限会社 和建築設計事務所
- ④ 元請業者：澤田建設株式会社
- ⑤ 原木供給：
- ⑥ 製材工場：
- ⑦ 乾燥工場：銘建工業株式会社
- ⑧ EW製造： 銘建工業株式会社
- ⑨ 施工図・加工図作成 銘建工業株式会社
- ⑩ 仕口・継手加工： 銘建工業株式会社
- ⑪ 建て方業者： 有限会社 ヤマナカ建工
- ⑫ 竣工年： 2019年

## 大林産業(株)第4工場



## A 建物概要

## ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	917.53	軸組構法	917.53
2階		屋根：AIA構法	
延べ面積	917.53		917.53

## ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	構造用集成材	異樹種	67	スギ+ベイマツ
	土台	ヒノキ	2	
	母屋	スギ	11	
	間柱	スギ	9	
合板	構造用合板	針葉樹	32	

## B 設計・施工

- ① 発注者： 大林産業(株)
- ② 設計者： 意匠： 株式会社ATA  
構造： 株式会社ATA
- ③ 施工管理： ㈱カドスコーポレーション
- ④ 元請業者： ㈱カドスコーポレーション
- ⑤ 原木供給： 輸入材、宮崎県or広島県産材
- ⑥ 製材工場： 中国木材(株)
- ⑦ 乾燥工場： 中国木材(株)
- ⑧ EW製造： 中国木材(株)
- ⑨ 施工図・加工図作成： ㈱ATA・大山プレカット協業組；
- ⑩ 仕口・継手加工： ㈱ATA・大山プレカット協業組；
- ⑪ 建て方業者： ㈱カドスコーポレーション
- ⑫ 竣工年： 2020年

## 澤田建設KAZAGURUMA CLTキャンパス



### A 建物概要

#### ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部 (m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	70.56	CLTパネル工法	70.56
2階	71.02	CLTパネル工法	71.02
延べ面積			

#### ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	CLT	スギ	140.072	
	集成材	欧州赤松	5.761	
造作材	CLT	ブナ	0.3072	
	LVL	桧・杉HB	0.0952	
仕上げ材				

### B 設計・施工

- ① 発注者： 澤田建設株式会社
- ② 設計者： 意匠： 有限会社 和建築設計事務所  
構造： 株式会社 エヌ・エス・イー
- ③ 施工管理：有限会社 和建築設計事務所
- ④ 元請業者：澤田建設株式会社
- ⑤ 原木供給：大林産業株式会社
- ⑥ 製材工場：大林産業株式会社
- ⑦ 乾燥工場：銘建工業株式会社
- ⑧ EW製造：銘建工業株式会社
- ⑨ 施工図・加工図作成 銘建工業株式会社
- ⑩ 仕口・継手加工： 銘建工業株式会社
- ⑪ 建て方業者： 有限会社ヤマナカ建工
- ⑫ 竣工年： 2021年

## 防秋産業倉庫Ⅱ



### A 建物概要

#### ① 床面積

階	全体 (m <sup>2</sup> )	木造部(m <sup>2</sup> )	
		工法	面積
1階	582.98		582.98
2階			
延べ面積			

#### ② 木材使用量

分類	種類	樹種	数量(m <sup>3</sup> )	備考
構造材	構造用集成材	桧	45.32	
	構造用製材	桧、米松	9.03	
造作材			0.00	
仕上げ材			0.00	

### B 設計・施工

- ① 発注者： 防秋産業
- ② 設計者： 意匠： 和建築設計事務所  
構造： 宮原龍一PLUS建築設計室
- ③ 施工管理 和建築設計事務所
- ④ 元請業者 ヤマナカ建工
- ⑤ 原木供給：
- ⑥ 製材工場 リンケン、マルホ
- ⑦ 乾燥工場 リンケン、マルホ
- ⑧ EW製造： リンケン
- ⑨ 施工図・加工図作成 ヤマナカ建工
- ⑩ 仕口・継手加工： 防秋産業
- ⑪ 建て方業者： ヤマナカ建工
- ⑫ 竣工年： 2021年

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会



地域材を活用した木造建築物促進に向けての提案・・・「3つの“つくる”を実現」

1: 事例をつくる

事例にまさる説得力なし！まずは木造建築物を作ること。木造建築は特別という意識をまず変える必要がある。いつでも、どこでも、誰にでも作れる、その意識と持ってもらうことが今後の需要拡大につながる

2: 事例集をつくる

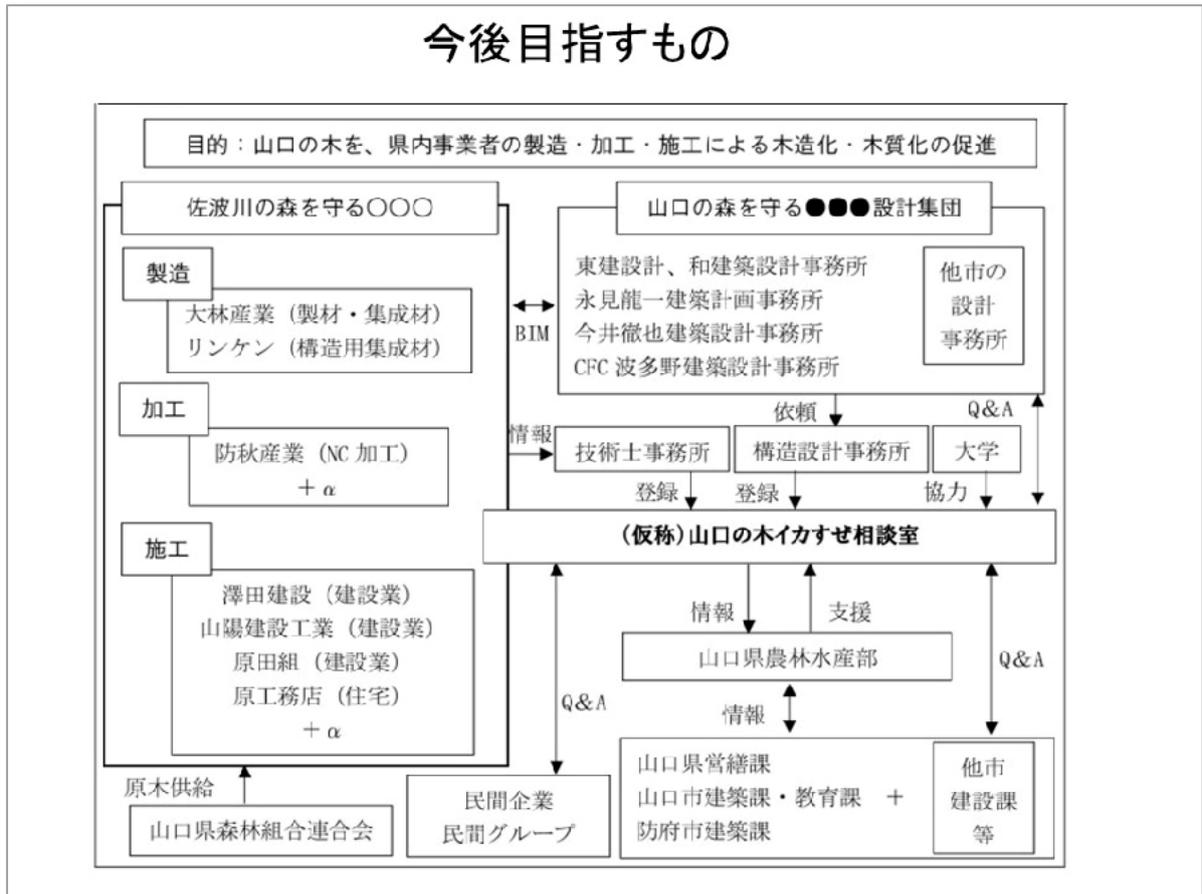
建築主やユーザー等にいきなり「木造の事務所」とか「木造の倉庫」とか提案してもイメージさえ浮かばないかもしれない。事例集を作ることによりより具体的に紹介、アピールすることができる。

3: 相談窓口をつくる

建築主、設計者、施工者等がいざ木造で作ろうとなった時、相談できる窓口があると不安なく計画を進めることができる。佐波川の森・・・も現状は山口・防府周辺のメンバーで構成されている。今後山口県の木造化・木質化、地域材活用等、木造率を引き上げるためには常時相談を受けることのできる NPO 化等常設の組織に改編をする必要がある。

山口県において住宅以外の建築物を木造で作ることはまだまだ“特別なこと”です。今後、いつでも、どこでも、誰にでも木造の建物ができるようになる為に、私たちの活動が少しでもお役に立てれば幸いです。

❖ 佐波川の森を守る木造建築研究会



## 6 情報・意見交換会

---

公共建築物等の木造化・木質化を進める際に課題となる内容は、どの団体にも共通している場合が多く、こうした共通課題に関して、広く情報を共有するとともに、これから同様の課題に直面する可能性がある他の団体が、先人や専門家の意見を聴くことは重要である。

この状況を踏まえ、成果報告会の後半では、支援団体に共通する課題について掘り下げる時間を設けた。

### 1) 進行役

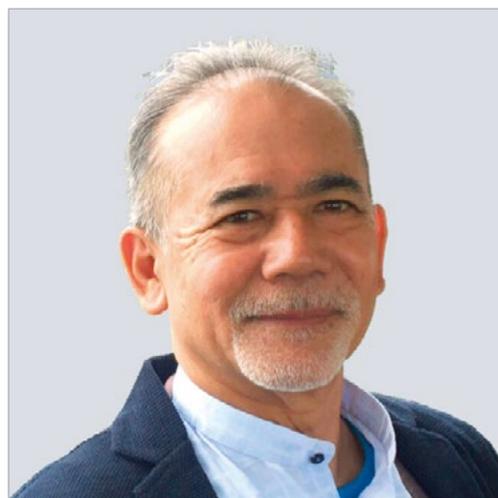
---

地域団体支援WG 主査

まつどめ しんいちろう

松留 慎一郎

(特非)木の建築フォーラム代表理事  
職業能力開発総合大学校名誉教授  
工学博士（東京大学）



### 2) アドバイザー

---

技術普及支援委員会委員長

みいしよ きよのり

三井所 清典

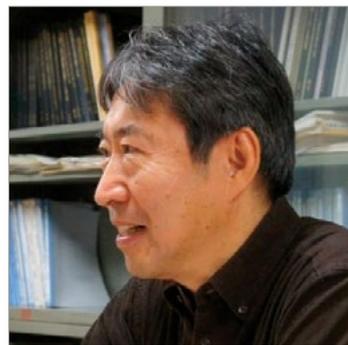
(公社)日本建築士会連合会名誉会長  
芝浦工業大学名誉教授  
建築家



技術普及支援委員会委員

いなやま まさひろ  
稲山 正弘

東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
工学博士（東京大学）



技術普及支援委員会委員

しだ さとし  
信田 聡

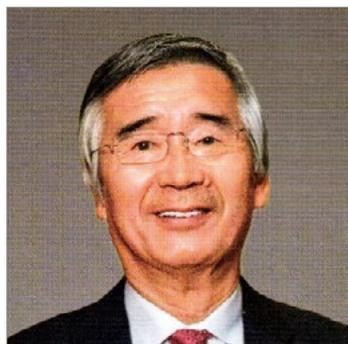
(公社)日本木材加工技術協会会長  
元 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
農学博士（東京大学）



技術普及支援委員会委員

ながさわ さとる  
長澤 悟

(株)教育環境研究所理事長  
東洋大学名誉教授  
A-WASS木と建築で創造する共生社会実践研究会会長  
工学博士（東京大学）



技術普及支援委員会委員

なかむら べん  
中村 勉

(株)中村勉総合計画事務所代表取締役  
ものづくり大学名誉教授  
建築家



地域間連携促進ツール作成WG 主査

おおはし よしみつ  
大橋 好光

(一社)木を活かす建築推進協議会代表理事  
東京都市大学名誉教授  
工学博士 (東京大学)



地域間連携促進ツール作成WG

あらい かずひろ  
荒井 一弘

(株)市浦ハウジング&プランニング執行役員  
技術士建設部門 (都市及び地方計画)



地域間連携促進ツール作成WG

かんべ わたる  
神戸 渡

関東学院大学建築・環境学部准教授  
博士(工学) (信州大学)



地域間連携促進ツール作成WG

はらだ こうじ  
原田 浩司

木構造振興(株)客員研究員  
技術士森林部門 (林産)  
博士(工学)



地域団体支援WG  
おおくら やすひこ  
大倉 靖彦

(株)アルセッド建築研究所代表取締役副所長



地域団体支援WG  
おくも けんじ  
奥茂 謙仁

(株)市浦ハウジング&プランニング専務取締役



地域団体支援WG  
か く てるひこ  
加来 照彦

木を活かす建築推進協議会理事  
(株)現代計画研究所代表取締役



地域団体支援WG  
きたせ もとや  
北瀬 幹哉

環デザイン舎代表  
中大規模木造コーディネーター



地域団体支援WG

すずき すすむ  
鈴木 進

(特非)木の家だいすきの会代表理事  
技術士建設部門 (都市及び地方計画)



地域団体支援WG

ひらの ようこ  
平野 陽子

(株)ドット・コーポレーション代表取締役  
博士(農学) (東京大学)



地域団体支援WG

やすだ てつや  
安田 哲也

NPO法人サウンドウッズ代表理事  
木材コーディネーター



事務局

たけだ こうじ  
武田 光史

(株)アルセッド建築研究所主幹  
建築家



### 3) 議事要旨

松留主査進行の下、発表者間、またアドバイザーとの質疑、情報・意見交換を行った。

#### 【プッシュ型について】

質問 アドバイザー:大倉

プッシュ型の地方自治体の企画支援の掘り起こしのことについて埼玉県の方からぜひ教えていたさきたい。

回答 埼玉県:永井

令和2年度にももとは森林環境譲与税を各市町村で活用していただくために、木材担当とアドバイザーの方と、あと森林環境譲与税の担当者と手分けしまして、県内の主に都市部の45市町、全部で63市町村ある中の45市町を手分けして訪問していったというのが始まりです。

その中で、アドバイザー制度が令和元年度から始まったわけですが、やはりどうしても市町村の方からなかなか手が挙がってこない。アドバイザーの方が21名も素晴らしい専門家の方がいらっしゃるのですが、なかなか御活躍の機会が持てないというところがもどかしいところで、その中で、特にアドバイザーの中に杉戸町の町役場の職員の建築課の渡辺主幹という、国の研修も御担当されて全国的に活躍されている方ですが、杉戸町の渡辺主幹に御同行いただいて4市町を巡った中で、今年度の申込みにつながったのが2市町あったということです。

市町村の方からすると、同じ立場の町役場の方がお話しに来られる、木造建築を渡辺さんが直接手掛けていらっしゃるので、大変経験豊富でいらっしゃる。それから、自治体の職員が一番知りたいところがコストとか発注の方法ですけれども、そういったところを非常に熟知していらっしゃるというところで、渡辺さんが訪問された市町村から今回の申請につながったのではないかなと思っています。

今年度は、木の家だいすきの会の鈴木さんと、もう1人アドバイザーの藤野さんに御協力いただきまして11市町回ったのですけれども、私は林業職員ではあるのですけれども、建築の知識はほぼない状態ですので、今回伺った市町の担当者の方、建築職の方が多かったかなという印象ですが、直接木材の利用に関して課題に感じていらっしゃる内容を具体的に質問していただきまして、そうすると鈴木さんなり藤野さんなりが具体的に解答してくださる、それが木材ってこうやって使えばいいんだというすごい納得につながって、非常に説得力があるなという感じでした。

今回11市町を選定するに当たりましては、毎年県で県産木材を活用した公共施設とか土木工事の実績を毎年度6月頃に全市町村と県内の県庁の各課に紹介しております。実績と一緒に今年度以降の計画があるかどうかとも調査しています。その計画、何年度にどういう施設を建てる予定である、それが木造であるか鉄骨造であるか、未定なのか、木造の場合は県産木材の使用の予定があるのかないのか、そういったところを聞いて調査をしまして一覧表にします。

その中で、例えば来年度から計画が始まるというところで、まだ木造なり構造が決まっていな

い市町村とか、木を使うことは決まっているけれども、県産材の利用が確定してはいないといったところをターゲットにします。

実際に施設の計画、実施、発注を担当している担当課に直接アポを取りまして、大体30分程度お時間を下さいと言いまして、「こちらから埼玉県の県産材を使うに当たっての意義とか県で行っている支援の内容を御説明に上がりますので、ちょっとお時間をつくっていただけますでしょうか、その時間帯にいる方に御対応いただければ大丈夫です。」というところをお願いしました。

県庁の職員と、地域機関が埼玉県内に3つあるのですけれども、それぞれの地域機関の木材担当の職員と協力しまして、大体2人か3人体制で、今回は計3日間実施しました。大体地域の近い市町村を4つか3つ、1日に回るようにスケジューリングをした形です。

補足 アドバイザー：鈴木

埼玉県川口市、木材商協同組合というのがあり、組合長が積極的に情報提供をしている。設計者と木材生産者のつながりが普段からできていることを市の建築課の職員も知っているの、「この木材商協同組合にちょっと行ってみたらどう？」とサジェスチョンをすることが可能なので、設計段階でその地域で調達できる木材の情報がスムーズに設計者に入ってくるという状況が円滑に木造化できている1つの要因ではないかなと思いました。

質問 奈良県：堀

個人的にも奈良県でも一応施設整備の予定などは紹介をしております、機会があったら市町村は行くようにはしているはしております。確かにアドバイスできる方と一緒に行くというのは非常に有効だと思う反面、まだ計画段階の予定とかを外部の人に対して情報を出すというところでかなり敏感になっています。

ですので、ある意味、県の間人だけで行く場合はアポ取りが簡単というか、簡単に応じてもらえるけれども、外部の人と一緒に行く、市町村さんに話を、相談してくださいと言いつきに、外部の人を連れていく名目といいますか、そういうところの説得というのはどうい

回答 埼玉県：永井

埼玉県産材の利用を促進するための県の施策に関する全般的なお話をしに行くこと、県の施策として県が認定したアドバイザーが同行するとお伝えしています。また、アドバイザー制度については毎年市町村にリーフレットやメールで周知しており、一応アドバイザー制度の窓口としては、最初は県が受け付けて、その後受注者である木の家だいきの会さんにつなぎ、その御相談内容に応じた専門家を派遣しますという御説明をしています。

アドバイザーは、関わった案件の入札に参加できないという状況になってしまうのです。そこがやはり問題、課題でして、それが嫌だからアドバイザーには余り出たくないとおっしゃる方もいらっしゃいます。そこをどう折り合いをつけていくかというのが今のかかなり大きな課題になっています。

補足 アドバイザー：大倉

入札について、例えばその辺の配慮をしながらアドバイザーを選ぶとか、場合によっては、アドバイザーを頼むときに、その業務に携わらない前提でアドバイスをお願いするとか、何かそういう事前の取決めがあればいいような気はするのですよね。

補足 アドバイザー：三井所

埼玉県の県庁が訪ねていくという積極姿勢の話があって、アドバイザー会議のメンバーも一緒に行くことによって役所の中の話し方みたいなのが実感できる、そういうふうな話し方とか接し方が分かってくると、後で民間が接触するときでも接触しやすくなるだろうなというふうに理解をして、一緒に行くことがすばらしいと私も思いました。

アドバイザーの方から中大規模木造建築をつくりませんかという主旨で行く話ではなくて、相談に乗れることはありませんかという気持ちで行くという話です。役所のアドバイザーとして杉戸町の渡辺さんがいます。本当に自分で木造の設計をした経験を踏まえた後で、プロポーザルで大きな幼稚園と保育園が一緒になったようなものをつくれ、それで工事監理の段階でかなり御苦労をされて、その経験をお持ちで、その後さらに4つぐらい木造をやられているのですね。そういう方がアドバイザーで行かれるということは、木活協でそれぞれの経験者が行っているのと匹敵する、あるいはそれ以上の内容のアドバイスができる方というふうに思います。

それから、鈴木さんも我々の仲間でもあるので、すばらしいアドバイザーだと思っています。その他の21人の大部分はそれほどまだアドバイザーとしての経験を持たない方々ではないかなと私は想像しているのです。ただ、そういう方々も一緒に行動することによって経験を積んでいく、あるいは後での反省会みたいなことを含めて経験を積んでいくということがあります。私は、最初はどんなアドバイスをなさるのだろうと心配なこともあったけれども、ちょっと考え直して、埼玉のように走りながら考えてアドバイザーを育てていく、あるいはアドバイザーと一緒に県内の民間・公共を育てていく、そういうのもありではないかと今は思っているのですね。

だから、熟練の人でないといけないと思うとなかなかアドバイザー組織はつくれないので、埼玉方式というのは、走りながら考えて、行動して、レベルを上げていると思っています。アドバイザーを、いろいろ相談窓口をつくらなくてはいけないとおっしゃっていたほかの県がありましたけど、そういう考えも取り入れてくださるといい。ただ、分からない人ばかりで行っちゃうと迷惑をかけることにもなるので、分かる人と一緒に行くとか、たまには失敗しても構わないよというようなことも含めてやっていかないとけないのではないかと感じております。

質問 アドバイザー：大倉

基本的に毎年県から各市町村に、何かこういう木造化できそうな物件というか、建築する施設物件の調査をなさっているのですか。

質問 アドバイザー：大橋

県から連絡を取るのはどういう部署に連絡を取るのですか。例えばこういう物件が建ちそうだから関連部局、例えば幼稚園が建ちそうだったら幼稚園の所管のところとかに連絡を取っていた

回答 埼玉県：永井

公共施設の県産木材を使った公共施設数というのを県産木材の利用の拡大の1つの指標として埼玉県で定めておりまして、そのために調査をしております。

毎年その調査を担当する部署が決まっております、木造の実績の調査は、農林関係であったり、営繕関係であったり、市町村によって様々です。調査票に担当課と担当者名と連絡先を書いてもらっているので、ここだという市町村にはまずその担当者に当たって、この建物はどこの課で建てるのですかというのを聞きまして、そこから担当の課と担当者を教えてもらってという感じですよ。

#### 【運営費用について】

質問 進行役：松留

運営に関しての費用などはどのようにされているか、何かあれば教えていただけますか。

回答 埼玉県：永井

運営の費用は、委託費として県予算を計上しております。県予算の財源は森林環境譲与税を充てていまして、ですので、森林環境譲与税はもともと本来市町村のために使われるものなので、今回アドバイザー制度は主に市町村の方を対象にやっているという制度づくりをしております。

その中で、アドバイザー制度を立ち上げたときに、当初アドバイザーの派遣に対応してくれた方にどのように費用を支払うかとか、旅費はどうするかとか、1年目である程度事務局とアドバイザー間で恐らく調整があって額が決定したのがありますので、それを継承して代々使っているという感じになっています。

補足 進行役：松留

最初が大変ですけどもね。最初の立ち上がりをどのようにするかと、それがうまく回り始めたら、今みたいなやり方がうまいなと思ったりしますけれども。

#### 【木材調達について】

質問 進行役：松留

木材調達に関する木材の情報や、それに関する具体的な事例を幾つか挙げてください。

回答 アドバイザー：大橋

どういう資材ならば供給できますよという情報を整理しておくというのは建築の側から見るとすごくいいことだと思っています。その整理をするに当たって、対象とする建物のある意味想定

してもいいのではないかなと思っているのです。

何を言いたいかという、単にこんなのバラバラとありますよという情報提供だけではなくて、整理をするときに、建物の規模、例えば500平米の建物だったら、1,000平米を超える建物なのか、必要となる資材の量がかなり違う。地元だけで本当に供給できるのかというのがありますから、1つは規模、もう1つは、やはり集成材とかCLT、トラスとか、要は地元の工務店なり地元だけで調達できないようなものを含む建物なのかどうか1つ。もう1つは、今も出ていましたけれども、要は公共建築なのか民間建築なのかという、何かそのくらいの分類をして考えると整理しやすいのかなと思いました。

というのは、やはりそれぞれの今言った条件によって全然違って、公共建築物であれば当然地元の木材優先になりますけれども、最初に小木曾さんから話がありましたように、これから多分民間の需要も出てくると思うのですけれども、民間建築になると、ある意味地元の優先してくれるお施主さんもいらっしゃるでしょう。工期とか値段、そういうところでできるだけ早く建てたいとかいうと、先ほどどこかの県でしたが、木材調達というのは何カ月ぐらい要るのですよというのを覚えておいてほしいと。

供給側からいうとそうですけれども、建築の側からいうと、すぐ手に入るものはどれと、どれだ。みたいな、特に民間建築物の場合にはそういうことになると思います。ですので、先ほど言いましたように、民間か公共か、あと規模、それとCLT、集成材、LVL、あるいはトラスみたいな、そういう地元だけでは供給できないような資材を使おうとしている建物なのかどうか、何かそのくらいの整理をしておく、地元でどのくらいを賄えるというのが分かりそうな気がします

回答 佐賀県：矢野

調達可能な県産木材部材リスト（案）今年度からこの資料をつくり始めたところです。

来年度以降、佐賀県建築推進協議会を立ち上げまして、もう一度本当に精度を高めて建築士の方により使いやすいような、見やすいような、より具体的なものとしていきたいと思っています。まだこれはたたき台といったところでのスタート時点となっております。

回答 佐賀県：安田

いわゆる建築の規模に対して使用する木材量をおおよそ設定させていただいて、これぐらいのボリュームにおいて供給する背景を前提に、難易度とか調達にかかる時間、あとはJASの必要性といったところをまとめさせていただいたのが表になっております。

ワークショップに参加いただいた木材の供給者、また、それを使っていく建築士なり、需要側というか利用する側、この間での申し合せをしていくツールという意味合いが非常に強いです。要するに、供給する側も誰に向けてこの資料を提示していくかというところが非常に大事な側面があって、やみくもに何もこのリストに載っているものの背景を十分理解しない方がこのリストの数字のみをうのみにしてしまう。例えばネットにこれが公開されていて、見ず知らずの人がこ

のリストに基づいて設計を進めていくことを今の現段階では想定をしていません。

今回のワークショップに参加している建築士は、可能な限り地元の木材をうまく活用して建築化していくことを目指しています。どういうものであれば手に入るのか、そこに関心を補っていくために、木材供給者から、「何でもできますよ」ではなくて「確実に約束してくれるものはどのような製品か」を、先に示してほしいという約束事を見える形にまとめたものなのです。

一応この一連のワークショップの中で、佐賀でも見ていただいたようなものを題材にして、建築側と木材の供給サイドの、これは木材もそうですが、原木の供給も含めて、川上から木材利用の川下まで、全般に1つの需要と供給の間の何か取決めというか1つのつながりをつくるための情報共有のツールとしてワークショップでは活用させていただきました。

1つ言えることは、建築をつくることって非常に自由だと思っています。建築はやり方いかんではいろいろな手法、方法があります。例えば材料で供給できるものは、これが条件ですと条件を示していただいたら、それをどのように組み立ててどのような建築空間をつくるか、これはテクニカルに様々な手法があるのですが、ただ、木材を供給するサイドは、山は動かずしてそこにあるわけですし、そこにある立木、原材料を製造できる生産体制、できること、できないことがはっきりしている。そういう関係の中で、両者が歩み寄って何か1つをつくるという関係においては、私はやはり随分建築側がそっちに歩み寄っていかないとできないのではないかと、そういう議論をいつもワークショップの中でさせていただくことがありました。

これを建築側は自由だから「欲しいものを持ってこい」という注文だって当然あり得るわけです。それでは地域の木材を使った建築はできないわけで、供給サイドと建築サイドの関係づくりみたいなものの中で、木材の部材リストというツールのつくり方は全くまた変わってくると思います。そういう背景をどのように考えていくかということころは、民間需要も含めてこういうツールをどう位置づけていくかというのは大変重要な課題だなと思ったところです。

回答 奈良県：堀

奈良の木ブランド課が中心となり木材関係者の方に協力いただき、一旦整理をしています。奈良県庁内部で木造をもっとやるという話が出たときに、規模が大きくなればなるほど、木造にした場合に木材量が多くなります。まず、構造材に関しては少なくとも現場の管理が大変なので、JASにしてくれと建築部局から注文がありました。それが大前提ですけれども、JASとなったときに、では、どれぐらいの量がどれぐらいの期間出せるのか、建築部局に明示しないと、県が発注する案件に関して木造化がそもそもの選択肢に入らないという状況でして、一応市町村、行政団体さんとか割と規模が大きめの公共建築物を発注する方たちにとこのような想定でこの一覧表を整理したというところはあります。

少なくとも地方自治体が発注する案件に関しては、工程表をきちんと組みさえすれば一括発注もできるのではないかと想定で、大体何カ月ぐらいあったら、何立米ぐらいだったら出せるよという目安をつくらうという発想からつくったのがこの表になります。もちろん長さや規格、それから、JASの想定なので、JASの機械等級で考えてはいるのですけれども、材面の品質、

E表示、ヤング係数、そこに発注から大体何カ月だったら何立米ぐらいという目安で工程表を組んでくださいねというつもりで立米数と期間を書かせていただいています。

製材の流通材に関してはそういう書き方をさせていただいて、これは造作材も大体の立米数を表示させていただいています。それプラス、奈良県内だと県産材で恐らく梁とかはちょっと難しい部分も出てくるかもしれないのですけれども、そうなった場合に集成材の仕様も検討しないといけない。ですので、集成材に関してもふだんつくっているサイズのリスト、それから、普段つくってはいないのですが、県内につくれるものに関して表示をさせていただいております。

補足 アドバイザー：大橋

今はまだ建築の側の木造好きな人が、かなり手間はかかってもいいからという人たちが材料調達のところまでやっていると思うのです。ですけれども、脱炭素になったりESGとかSDGsになって民間需要が起きてきたりすると、ほかの材料と同じように発注すればいついつまでに納めてくれると、そういう供給をもっとスムーズにできないかと思う人たち。今まで例えば鉄筋コンクリートとか鉄骨造を建てていた人たちが木造に入ってくると、今までの山に行ってヤング係数を測るところまで一緒にやりますという設計者ではない人たちがいっぱい入ってくると思う。そういう人たちに対応するには、もっと供給の情報を事前に知っておいてもらうという意味で、先ほどから出ているようなリストが建築の側にもっとオープンにならないのかなと私は思うのです。

### 【JASについて】

質問 アドバイザー：信田

公共建築物でしたらJAS指定というのが多分来ると思うのですけれども、民間で建てるようなものでJAS製材を使わないということがあるかもしれませんよね。それに対する対応というか情報提供というのはどうなっているのか。

回答 アドバイザー：大橋

大きい建物になったら、主要な構造部分はまだJASでないと駄目です。構造計算上、46条2項という多分ルートになりますので、そこでJASが要求されます。ですので、そういう意味では、大きい建物になったら、ノンJASは主要構造部以外で使ってもら、それしかないと思いますね。ノンJASだけで大きいものは建てられないと思ったほうがいいと思います。

質問 アドバイザー：信田

JAS製材ですが、表の中に目視等級区分と機械等級区分と2つ丸印がついていたのですけれども、構造計算とかする場合には、やはりヤング率表示がついている、すなわち機械等級区分製材、JAS製材がメインになるかと思うのですが、いかがですかね。目視等級のJAS製材というのはE表示はつかないですね。

回答 佐賀県：安田

表の中に丸印があるのはJASの格付が可能ですということを記載していて、無等級での流通が本当に一般的なものとしては、まだ現状、無等級材ですので、そういったことを必要とあらばJAS格付も可能だというのが表の背景です。

目視等級の件ですけれども、目視等級は構造設計者といろいろやりとりをしていて、やはり現場では余り信用していないのですね。目視等級でも、性能の把握をしたい構造設計者は、工場の自主検査でヤングを測定してもらったものを使っているというのが、今、中・大規模の建築で製材を使うときはもうほとんどそういうパターンになりつつあります。

無等級材でもいいという設計者も主要な構造部に必要なものについては、必要な部材においては測定する、ヤング測定をして使い分けるといったことが実情になってくるのではないかなど。それがいわゆるJASの認証工場でラベル貼って出てくるか、それとも工場の自主検査に基づくリストとして測定値つきで納品されるか、その違いかなど。最近の経験をお伝えをしておきたいと思います。

回答 奈良県：堀

JASの製材所さんの御事情もあるのですけれども、JASを使う、使わない、の話で、民間さんとJASでなくてもE表示があればいいとか、いろいろあるとは思いますが。奈良県の事情としましては、行政がJAS材を使うような仕事を出不せないと、少なくとも奈良県内のJASの認定を取っていらっしゃる製材所さんのJASの需要はほとんどないような状況です。仕事がないといえますか。というようなことを奈良県内の製材所さんの業界からはよく言われます。

ただ、県の場合は、県の建築部局自体が規模が大きくなったらJASでないと、もう、ようやらへんと言っているのです。そこは問題はないのですけれども、ただ、市町村さんになった場合に、やはり市町村さんとしては地域の材を使って地域になるべくお金が落ちるようにやるということを説明しないと議会向けに説明がなかなかつかないですね。となったときに、地域に、例えば市町村地域内とかにJASの工場があれば使えるのですけれども、ほとんどないので、では、地域になるべくお金が落ちるように木造をしようとなると、無等級材で構造計算して建てるというような方法に流れていくのかなど。

当課でもそこに関しては基本的にはJASをという名目でお伝えはするのですけれども、規模が大きくなればJASでないとちょっと現場がしんどいですよね。ただ、規模が小さいものに関しましては、品質の管理が現場でしきれる量までは、無等級材で構造計算ができるのであれば、それで各市町村さんで取り組まれてはいかがですかというような話をさせていただいている状況です。

回答 アドバイザー：三井所

JASの話ですけれども、私が全国の建築士会の皆さんとメールで交換している話の中では、いろいろな考え方が出されてきます。それはそれぞれの地域の事情によって判断が違います。例えば岡山県ではJAS工場が維持できなくなって、JAS工場認証を返還したとか、そのような話も出てきます。それから、例えば山形県の白鷹では、3つの製材所と住宅メーカーが一緒にな

って、JAS認定の乾燥をちゃんとできるような会社をつくったという、小さな製材所が生き続けていけるような方法で新しい品質を確保するという動きも出てきています。

何がいいかはすぐには言えないのですけれども、やはりこの問題は、ローカルガバメントが、地方自治体とか地方政府が自分の地方政府の中での産業、人の生き方とか働き方、仕事の在り方というものを真面目に考えるときに、どういう解決をしていくものかということになってくるだろうと思うのですね。JASを返還しなくてはいけないような、維持ができないということは、JAS認証を維持できるような仕事が継続できないから今のような返還せざるを得ない状況になったり、あるいは取るという意欲がなくなったりするわけです。ですので、これは国の政策も自治体の政策も含めて、広い範囲の市場に任せた自由競争の世界ではない話として解決するような視点を持たないと解決できないのではないかなと思っています。問題はとても深く大きくなっていくのですけれども、それぞれの自治体が自分たちの権利と義務の中で新しい市場のこと、地域のことを考えるということになるのだと思います

#### 【CO<sub>2</sub>の削減について】

質問 進行役：松留 環境問題

回答 アドバイザー：中村

昨年春からものすごいCO<sub>2</sub>削減の嵐が吹き荒れていて、建築界は大騒ぎですよ。皆さんもよく御存じのように省エネ性能の評価基準はUA値という外皮性能と一時消費エネルギーだけの比較なのです。そうではなく木造を使うということに対しては、LCCO<sub>2</sub>できちっと計算をして、木造というのは鉄骨やコンクリートに対してこれだけCO<sub>2</sub>は少ないのだということをしつかりと伝えるべきだと私は思います。どうしてそれを皆、しないのだろうかと思います。

これを私たちが実際に設計するときのツールにしないといけないと思っています。各県も自治体もそのツールを持っていて、ここで毎年発表している各自治体がつくっているものがCO<sub>2</sub>はどこまで少なくできたかというコンクールをやってもいいぐらいだと私は思います。そういうことをした上で、その木造を積極的に使っていくのだという全体の機運を高めないといけないと私は思います。昨年から非常に大きなうねりが来ているわけですから、この機会をしつかりとつかまえてはいけないと思います。

ここで皆さんが今やっていることは、もっと具体的な現場での作業ですけれども、実はこの評価基準の見直しというものをもっと木造に対してやるということ。それから、ここにもありますけれども、例えばベイマツを使うのと地場産材の奈良の木を使うのとの差もしつかりとCO<sub>2</sub>のLCCO<sub>2</sub>から計算をしておいていただきたい。こういうことが公表されて初めて今のコンクリートや鉄骨よりも木造を使うことがどれだけ重要なかが分かってくるわけですね。今、RCの業界のほうは大変危機感を持っているわけです。RCを使うことによってCO<sub>2</sub>の量が物すごく多いので、CO<sub>2</sub>を吸収するコンクリートを使うということにまで研究しているわけですね。

こういう動きというのはRCはもう先がないのだという危機感を持っているという現れですね。これは非常に重要なエポックの時期になっていることを示していて、これをしっかりとつかまえて、CO<sub>2</sub>排出量の少ない木造をもっとしっかりと使う、それから、トレーサビリティも含めて、外国産材を使うということではなく地場産材の木を使うとこれだけすごいのだということもしっかり見せて、これを表面にアピールした上で使っていくというふうにしていただきたい。木活協自身もそちらの方向に進んでいただきたい。ここにいる専門家の人は、誰もそういう省エネ、CO<sub>2</sub>に関する専門家はいませんが、それをしっかりと頑張りたいと思います。

(資料) 60ページのここに、「なぜ木造を利用する必要があるの?」というところに環境問題がちょっとだけ書いていますが、もっとこれに関してしっかりと書いて、なぜCO<sub>2</sub>の少ない木造を使うことによって、例えば今まで木造で使った建物全てLCCO<sub>2</sub>の計算をしていただきたい。今私たちは最初の森林から含めて、それが何年もって、その最後のところで解体するまでのCO<sub>2</sub>を全部計算しようとしているのです。それをやった上で、例えば30年で壊すのではなく、50年、100年木造でももつのだという前提で計算をするとLCCO<sub>2</sub>は非常に少ないということが分かります。私は自分でやっていますけれども、皆さんもやるべきだと思いますね。やった上で、地場産の木を使うことがいかに大事なのかということを知っていただきたいと思います。

回答 アドバイザー：小木曾

こちらは林野庁のほうでも、課は違うのですが、木材産業課のほうで、やはりESG投資で、建築物を木材利用に使うときに、どう評価していくかといったことも検討されていました。その中でやはりCO<sub>2</sub>の話は、一番に考えなければいけないということで、先ほど同じ時間でやっていた別の事業の委員会でも、そここのところも併せて検討させていただいております。また、川中の工場のLCAの在り方といったところも今取組を始めておるところですので、またそここのところもある程度成果が出たときにここをフィードバックするというのも1つできるのかもしれないので、またそここのところは改めて共有させていただければと思います。

質問 進行役：松留

もう1つ、川上、川中、川下のネットワークの話をしたかったので、まだ発言をされていない方がいっぱいいらっしゃるのですが、お手を、声を出していただけますか。何か少しお話をいただけるとうれしいのですがよろしいでしょうか。

回答 山梨県：佐野

これまでの議論を伺って、例えば埼玉県さんのプッシュ型の市町村訪問とかは、本県でも似たようなことをやっています、大変参考になりました。また、奈良県さん、佐賀県さんのリストづくりにつきましても、我々のネットワークで言うと、ワークショップ3のほうで建築士向けのワークショップを行った際に、自分が森林総合監理士という立場でリストを起こしてみまして、それもやはり製材所の方とやりとりすると難しい作業だなと実感した次第です。

やはりネットワークづくりという点では、いろいろな方々がそれぞれの得意分野を生かして御

参加いただくことが大変重要だと思いますので、今回のように建築サイドの視点での物事の見方とか地場の産業サイドでの物事の見方を伺えて大変参考になりました。ありがとうございました。

回答 福岡県：秋山

今までの参考意見をいただきまして、川上、川中、川下のネットワークなのかな、それとも、福岡県の場合はネットワークというよりも相互理解のところを深めなければいかんのかなというのを感じています。JASのリストの件に関しても、今福岡県であのリストをつくらうと言ったら多分かなりもめると思います。というのはなぜかという、やはりどうしても宮崎とか大分とか有力なところがあるので、一通り川上、川中、川下に産業はあるし、川中の分野も、木造生産、加工、流通という形で、皆さん立場がいろいろ違って、確実に流通できるものは住宅産業向けの在庫品があるものという形で売りたいと。

だから、当然木造ビルになる、木造ビルにしていかなければいけないという危機感を持っているわけです。在庫品をそろえてやっていかなければいけないと。だけれども、産業がついていかない。JAS化して格付するのならノンJASになる確率も高くなるわけで、その使い道があって、それをちゃんと在庫品として出せるという形があるのなら話ができるよと。でも、今自分たちがどの役割をやっていいかまだ分からないので、お互い情報共有して相互理解して行って、福岡だったらどんな形で出せるのかということを考えていくときかなと言われていました。

その中で、逆に川中の人たちなんかは、では、福岡は集成材つくっていないからといって、全木連のネットワークがあるので、その中から自分たちも流通はさせられるよと言うのです。だから、そういうところは地元で産業力がないからといって、それは流通から外れるということはまた違うと。そういったものをどうやって考えていくかというのは、地元でやはりしっかり考えた上で形づくっていくというのが今は大事なのかなと考えているところです。

回答 山口県：原田

先ほど木材の性能という話が出ました。木材を誰でもどこでもいつでも使えるようにならないと木造の建物は普及していかないと思うのですよね。先ほど言われましたように、特殊な方が一生懸命になってやらないと木が使えないという状態では実際できないと思います。私も実際に設計をさせていただいて、CLTを使うと、このKAZAGURUMA（会場）は完全に県産材を使っているのですが、そういった施主さんの強い意思がないとなかなか使えないという状態。

それから、納品のことに関して言うと、一々材料まで設計事務所が顔を突っ込む、手を突っ込むというのは非常に時間もかかりますし、普及もしていかない。だから、今やはりメーカーさんに頼むというのが一番楽なのですよね。CLTであれば、銘建工業さんに頼んでおけば材料も構造計算もやってもらえる。LVLであれば、この辺で言えばウッドワンさんに頼めば材料も構造計算もやってもらえる、すぐ使える。もう鉄と同じような感覚で材料の搬入をしてもらえる。木を実際に使うということになってくると、そのほうが楽なのです。

だから、先ほど言われたように、誰でもどこでも使えるような材料のストックとか性能の表示といったものが常にないと現場は使いにくい。特に設計事務所として言わせてもらおうと、材料が

大変使いにくいです。だから、先ほど一番最初に言われた地域間連携推進ツールというのですか、こういったもので、例えば山口県にないけれども、福岡にはあるよとか、大分にはあるよとか、広島にはあるよとか、そういう在庫の状況とか材料の品質といったものが少しずつでもどこどこに幾らある、いついつどの時期で手に入るというのが分かってくると木は使いやすくなるのかな。

今の状態では、山口県だけでつくろうと思うと実際に木を調達するのが非常に大変です。木が出てきたら、今度は加工する業者が、そこでちゃんとJAS工場がそれだけ加工能力があるかといったことも含めると、地域連携という周りの県と連携をしながら材料を調達していくというのは本当に大事な話ではないかなと思います。そのためには情報の共有は欠かせないのではないかなと。メーカーさんに頼らずに、やはり地元の業者とか事務所が連携して行って1つのものをつくり上げていくということを考えると、今のままでは非常に苦しいです。地域間の協力のネットワークがこれから絶対に必要なツールではないかなと思います。